

田舎源氏

十之編
十一編
十二編



儂
中
急
嘆



上編三十

鶴

梅



倭紫

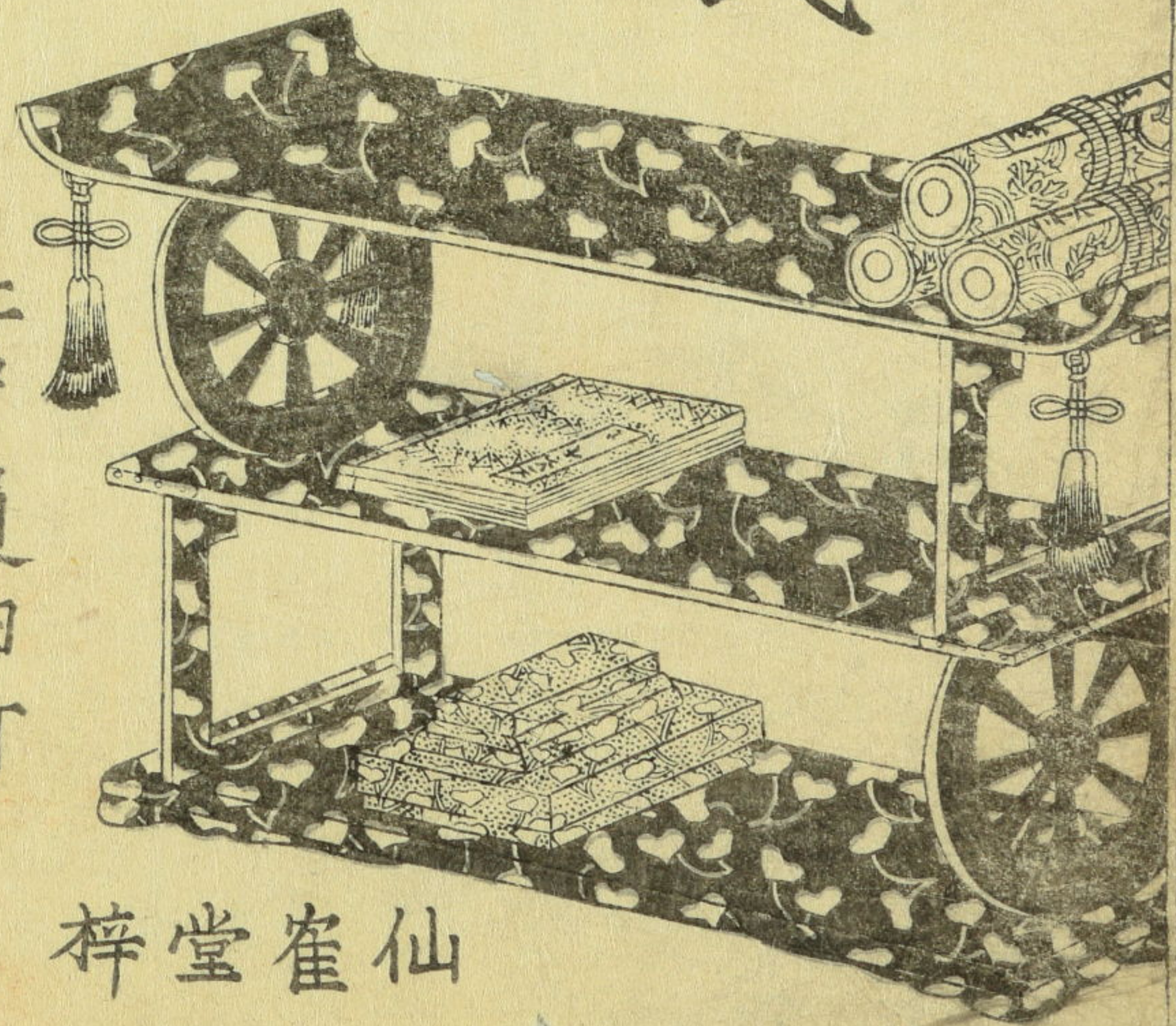
田舎源氏

第十三編

上冊

種彦作

國貞画



江戸通油町

仙雀堂梓

倭紫田舎源氏第十三編

山名解澤入道子々連歌の序小扇の繪小女あか画たる成

源氏の意伊勢物語の意とて事ありと花鳥風月と

いひえ巫女梓ふよ各て同か六條の夜宮の母御息所の名のりて

いふとれつといふ事の事り通書化て物語るべしといふ事あり

是序の康正二年小挑華老人のあせのりたるあの花鳥風月と

題冊子入もまねくは傳をねり大本慶安三年卯行て小のこまのりたる

花鳥姉風月妹といふ神子をまのりたるを梓ゆけて同とて業平先は氏

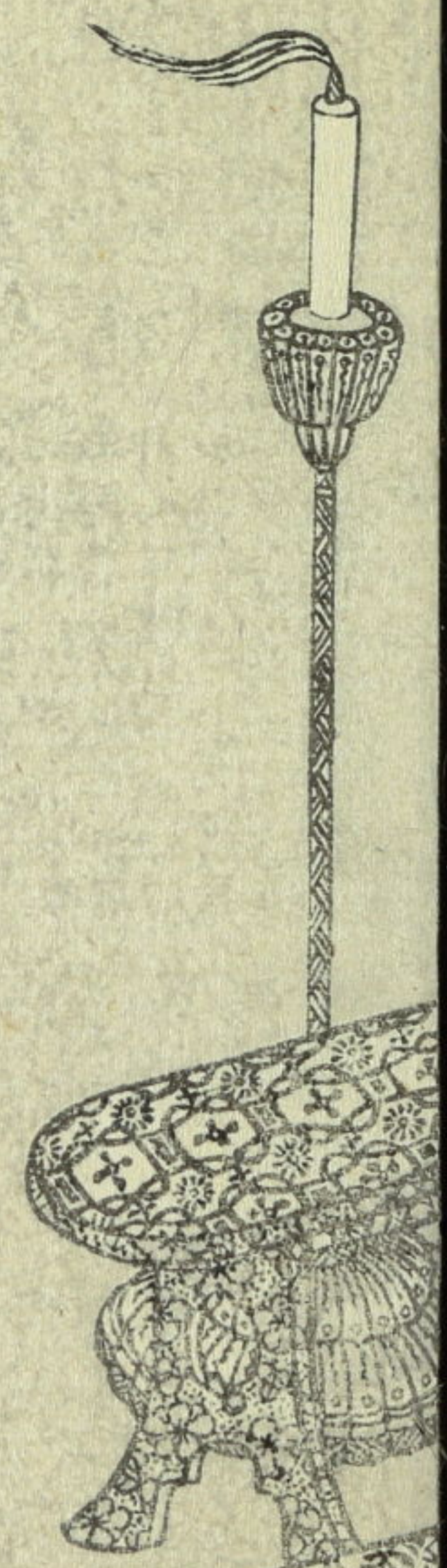
物語に見えたる女房いなをるく神子いるりの同合側掛あき

鏡に冬の面影のあらるりといふ事と綴り按あの二種の物語大意と

兒女るえふ知とせんとの世をるるべしれがの巻のめけいますまると

原式十三編

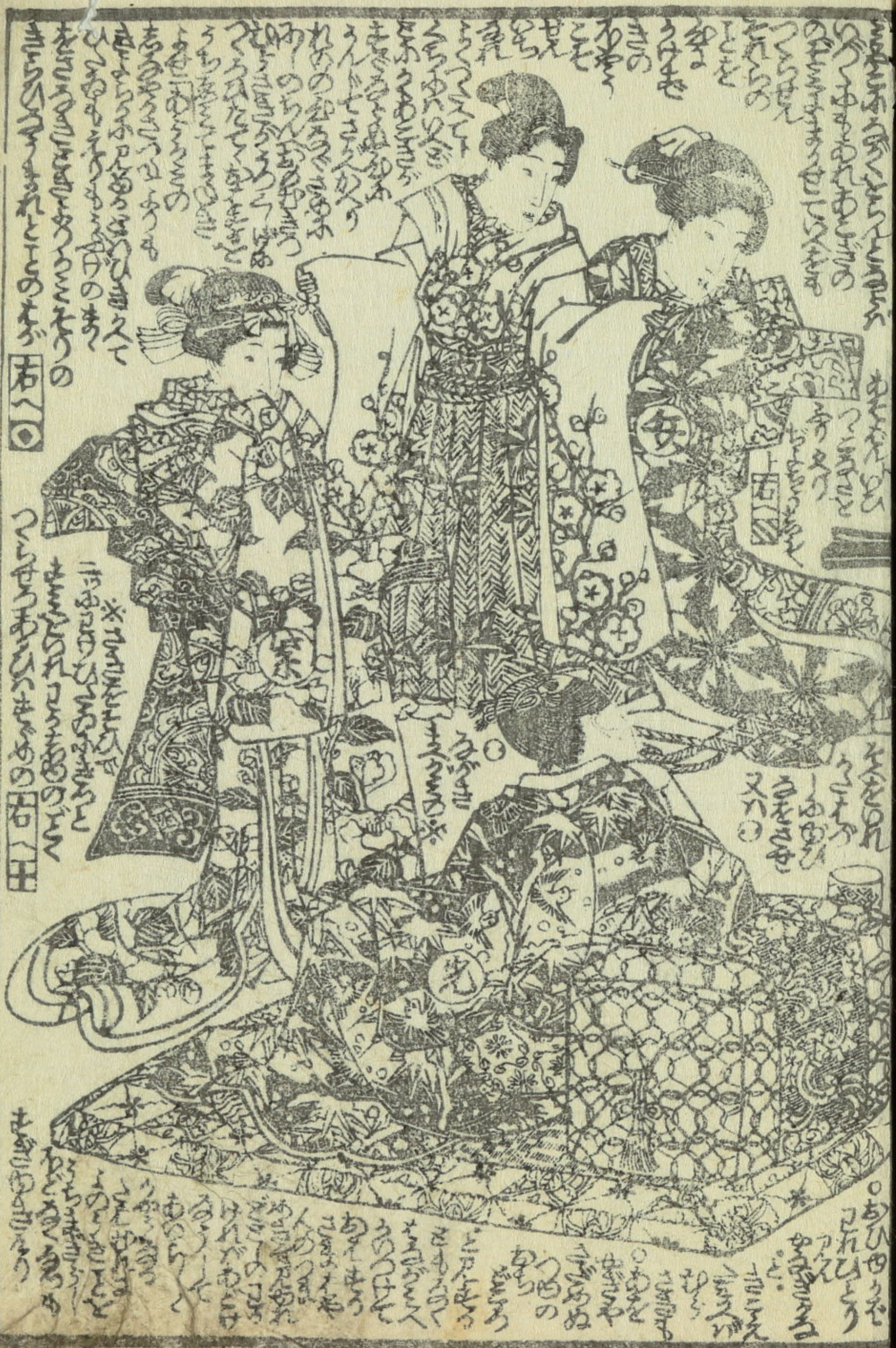
光氏の正室
二葉上



るげさこび
空よまじら
つがこはれ
むまびも
あふひの
つま

阿古木の
窮鬼





右へ

五ノ四ノ三ノ二ノ一ノ
 一ノ二ノ三ノ四ノ五ノ六ノ七ノ八ノ九ノ十ノ
 十一ノ十二ノ十三ノ十四ノ十五ノ十六ノ十七ノ十八ノ十九ノ二十ノ

一ノ二ノ三ノ四ノ五ノ六ノ七ノ八ノ九ノ十ノ
 十一ノ十二ノ十三ノ十四ノ十五ノ十六ノ十七ノ十八ノ十九ノ二十ノ



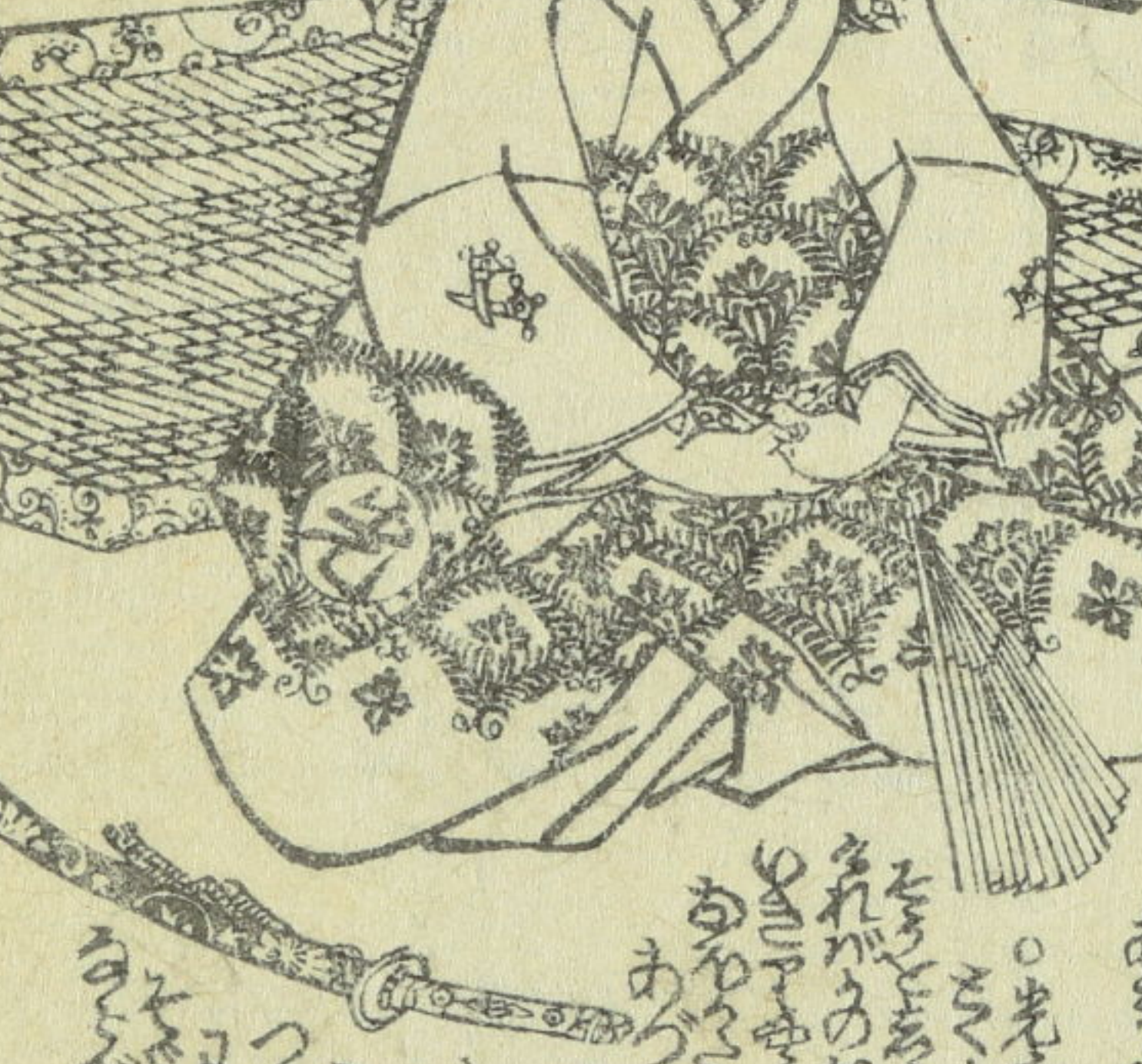
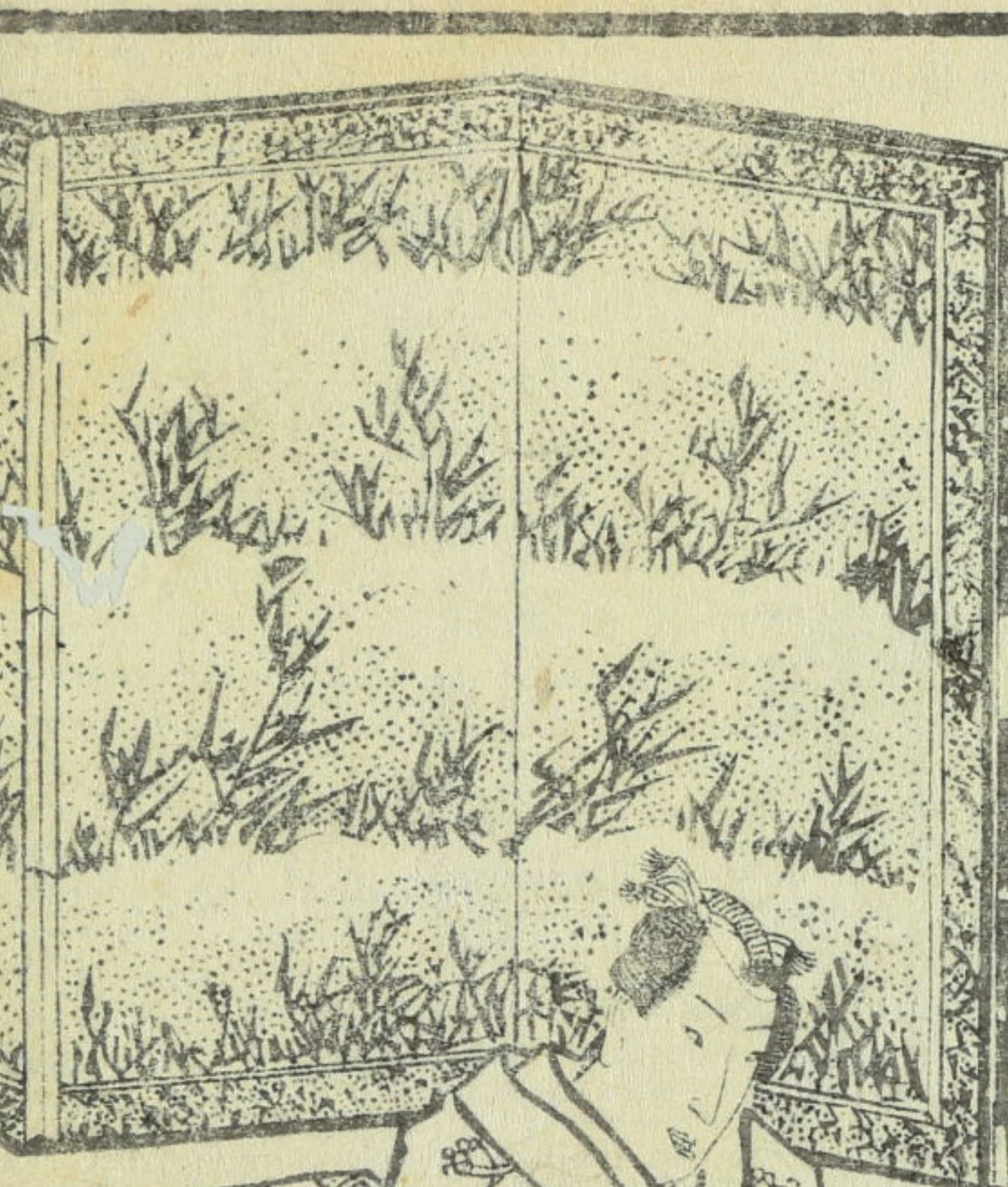
一ノ二ノ三ノ四ノ五ノ六ノ七ノ八ノ九ノ十ノ
 十一ノ十二ノ十三ノ十四ノ十五ノ十六ノ十七ノ十八ノ十九ノ二十ノ

一ノ二ノ三ノ四ノ五ノ六ノ七ノ八ノ九ノ十ノ
 十一ノ十二ノ十三ノ十四ノ十五ノ十六ノ十七ノ十八ノ十九ノ二十ノ

一ノ二ノ三ノ四ノ五ノ六ノ七ノ八ノ九ノ十ノ
 十一ノ十二ノ十三ノ十四ノ十五ノ十六ノ十七ノ十八ノ十九ノ二十ノ

一ノ二ノ三ノ四ノ五ノ六ノ七ノ八ノ九ノ十ノ
 十一ノ十二ノ十三ノ十四ノ十五ノ十六ノ十七ノ十八ノ十九ノ二十ノ

一ノ二ノ三ノ四ノ五ノ六ノ七ノ八ノ九ノ十ノ
 十一ノ十二ノ十三ノ十四ノ十五ノ十六ノ十七ノ十八ノ十九ノ二十ノ



一ノ二ノ三ノ四ノ五ノ六ノ七ノ八ノ九ノ十ノ
 十一ノ十二ノ十三ノ十四ノ十五ノ十六ノ十七ノ十八ノ十九ノ二十ノ

Handwritten text in a cursive script, likely a transcription of a play or a commentary on the scene below. The text is arranged in vertical columns, starting from the right side of the page.



Handwritten text in a cursive script, continuing the transcription or commentary from the top of the page. It is located below the illustration of the woman playing the shamisen.

Handwritten text in a cursive script, located at the top of the left page. It appears to be a transcription of dialogue or a commentary.



Handwritten text in a cursive script, located at the bottom of the left page. It continues the transcription or commentary, with some text written in a different style or as a separate note.

京三十一番

Handwritten text in the upper and lower margins of the right page, written in vertical columns.

Handwritten text in the upper and lower margins of the left page, written in vertical columns.



原氏十三篇

Small text at the bottom left corner of the page.

Small text at the bottom right corner of the page.

國貞画種彦作



御免江戸醫開板所

毎年十一月下旬より重初め申
 抄後文
 修付て下り

載陽帖

南山禅師書東海道
 四季和文章石摺木曾海道

道法早筭用道中記一校撮

日本名所之繪

唐紙摺一枚
 蕙齋鐵形紹真筆

撰

女古狀揃園生竹

大木 而品出来 高井蘭山編撰

還魂紙料

柳亭種彦隨筆
 古画入二冊

撰

草の心

田喜基編輯
 撰

女同放言

初編二編共一冊
 撰

右才三編二冊... 初編二編に... 撰



源氏十三編
 月日不明
 源氏物語
 月日不明
 源氏物語
 月日不明
 源氏物語

源氏十三編
 月日不明
 源氏物語
 月日不明
 源氏物語

源氏十三編
 月日不明
 源氏物語
 月日不明
 源氏物語



源氏十三編
 月日不明
 源氏物語
 月日不明
 源氏物語

源氏十三編
 月日不明
 源氏物語
 月日不明
 源氏物語

源氏十三編
 月日不明
 源氏物語
 月日不明
 源氏物語

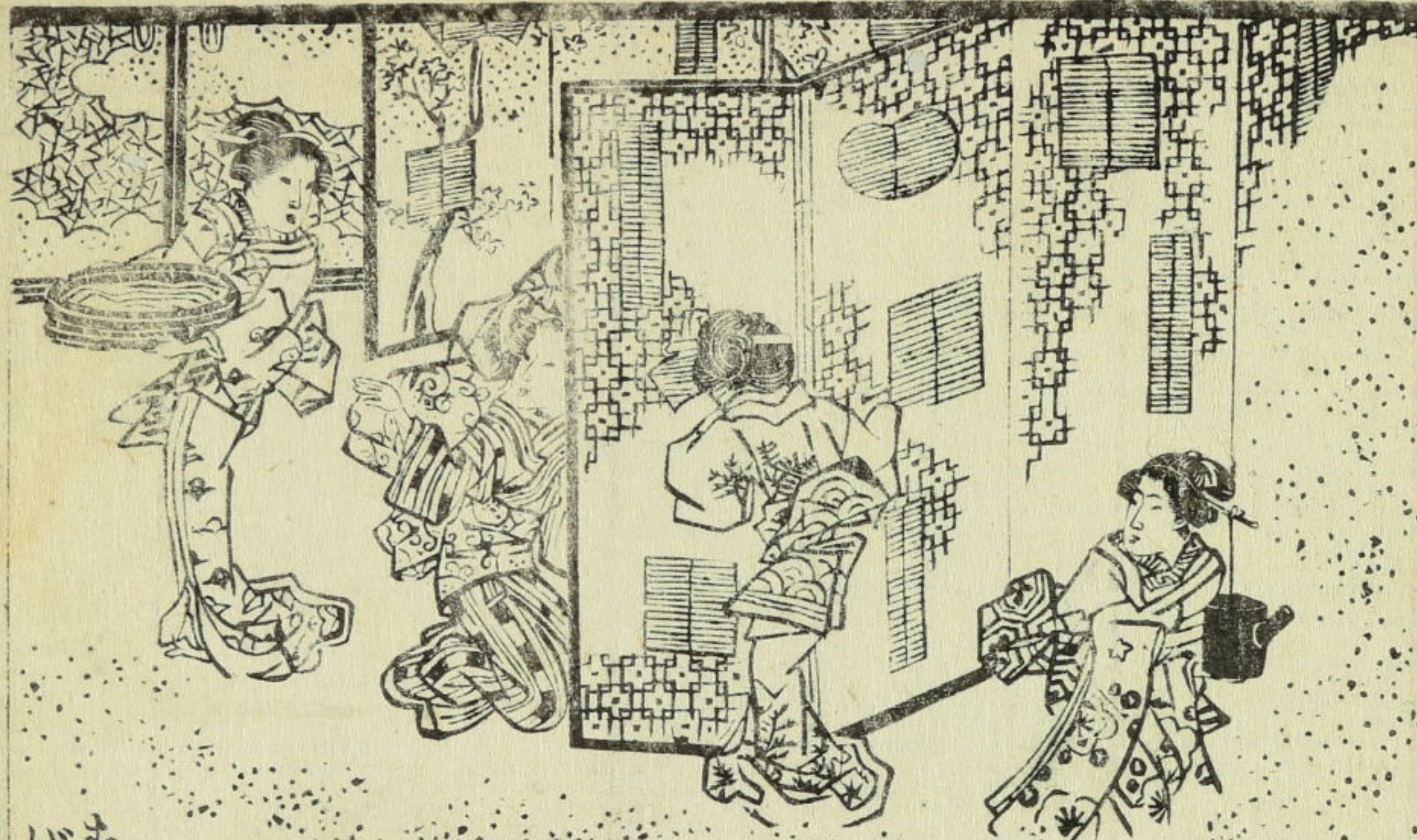
源氏十三編

Handwritten text in a cursive style, likely a transcription of a Japanese text, located at the top of the right page.



Handwritten text in a cursive style, likely a transcription of a Japanese text, located at the top of the left page.





一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

一ノ二ノ三ノ四ノ五ノ六ノ七ノ八ノ九ノ十ノ十一ノ十二ノ十三ノ十四ノ十五ノ十六ノ十七ノ十八ノ十九ノ二十ノ二十一ノ二十二ノ二十三ノ二十四ノ二十五ノ二十六ノ二十七ノ二十八ノ二十九ノ三十ノ三十一ノ三十二ノ三十三ノ三十四ノ三十五ノ三十六ノ三十七ノ三十八ノ三十九ノ四十ノ四十一ノ四十二ノ四十三ノ四十四ノ四十五ノ四十六ノ四十七ノ四十八ノ四十九ノ五十ノ五十一ノ五十二ノ五十三ノ五十四ノ五十五ノ五十六ノ五十七ノ五十八ノ五十九ノ六十ノ六十一ノ六十二ノ六十三ノ六十四ノ六十五ノ六十六ノ六十七ノ六十八ノ六十九ノ七十ノ七十一ノ七十二ノ七十三ノ七十四ノ七十五ノ七十六ノ七十七ノ七十八ノ七十九ノ八十ノ八十一ノ八十二ノ八十三ノ八十四ノ八十五ノ八十六ノ八十七ノ八十八ノ八十九ノ九十ノ九十一ノ九十二ノ九十三ノ九十四ノ九十五ノ九十六ノ九十七ノ九十八ノ九十九ノ百



一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

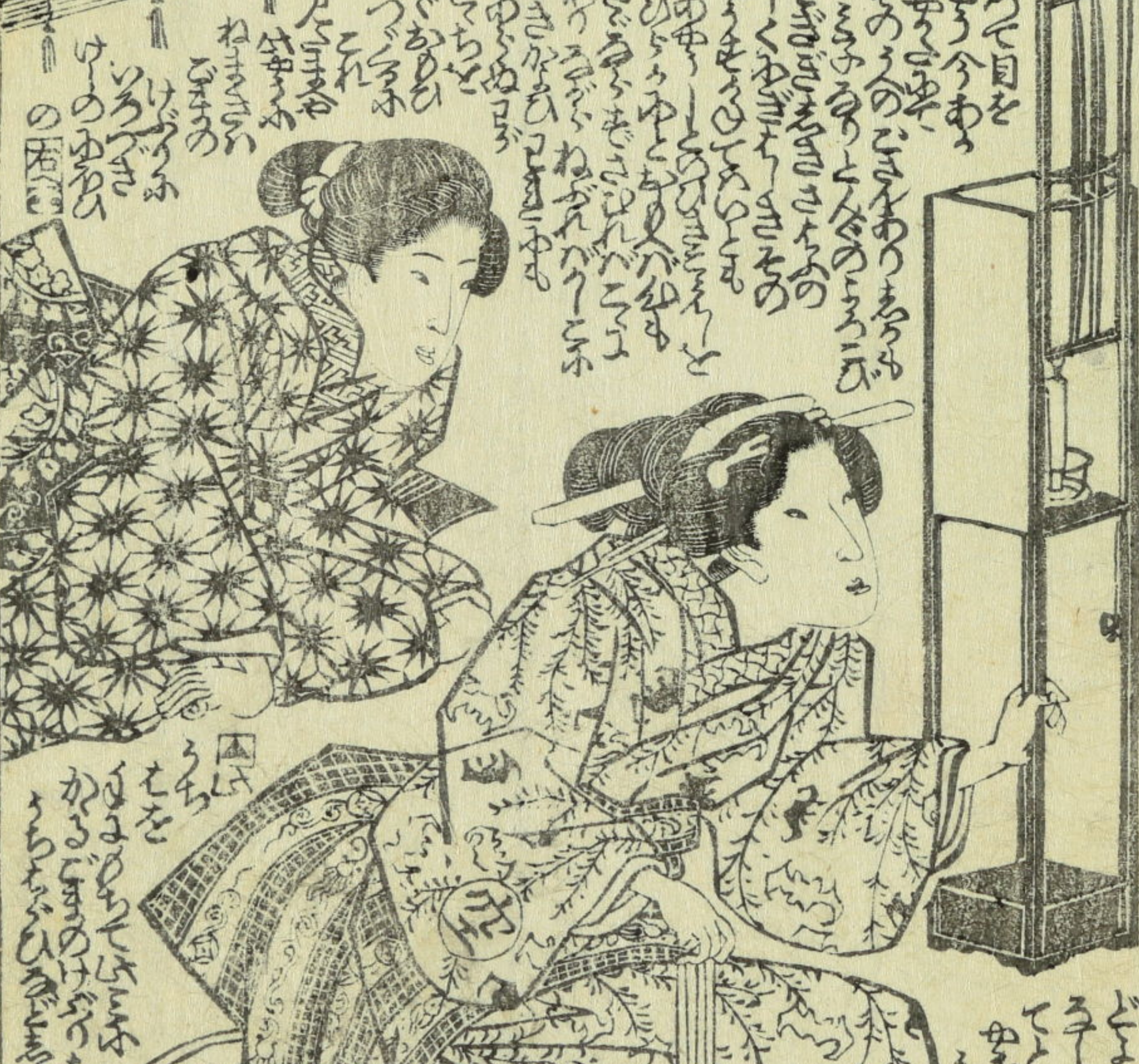
一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

右の御方
 あらゆる
 かしら
 いふ
 御方の
 あらゆる
 かしら
 いふ
 御方の
 あらゆる
 かしら
 いふ
 御方の
 あらゆる
 かしら
 いふ
 御方の
 あらゆる
 かしら
 いふ
 御方の
 あらゆる
 かしら
 いふ

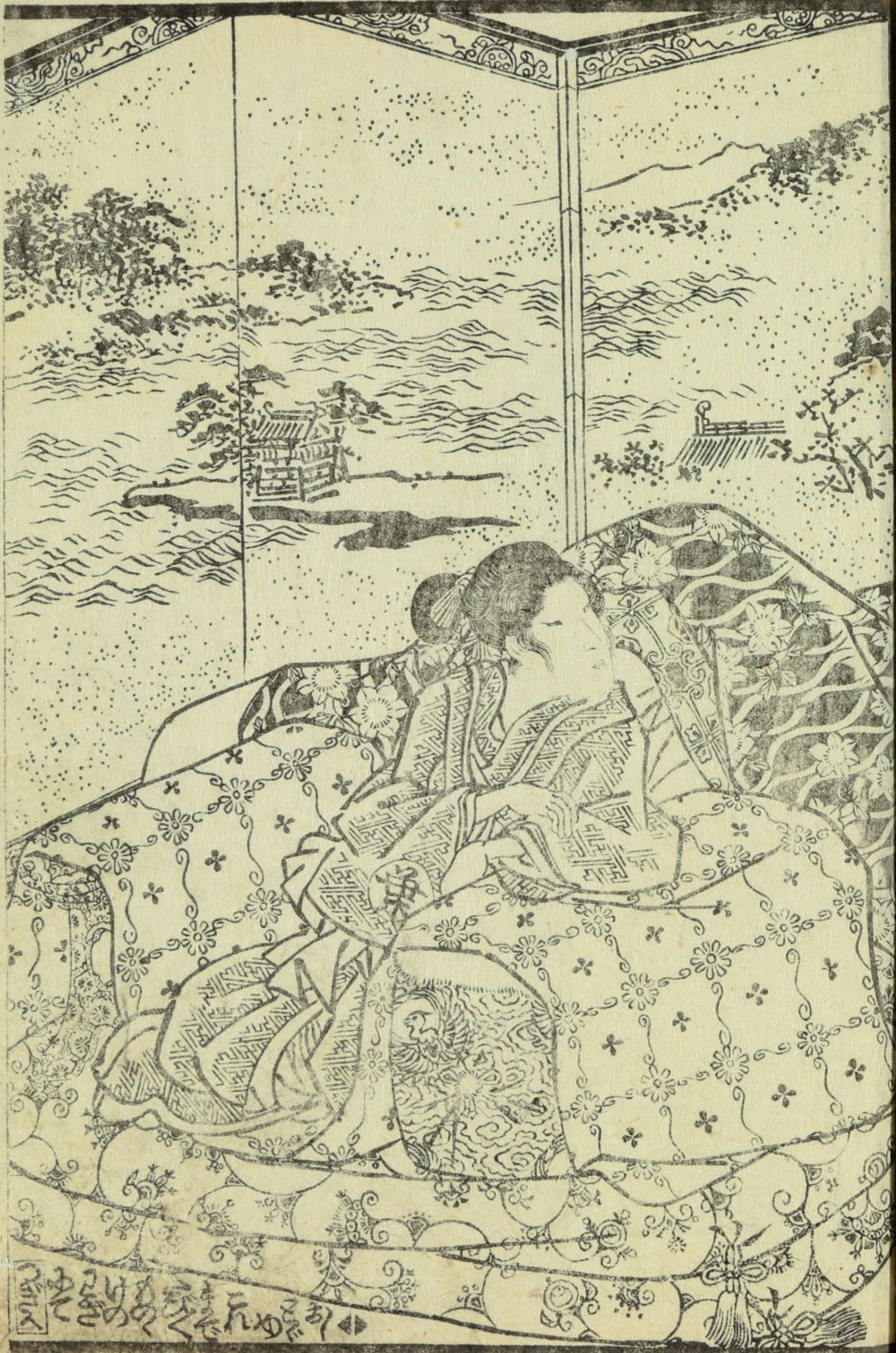


左の御方
 あらゆる
 かしら
 いふ
 御方の
 あらゆる
 かしら
 いふ
 御方の
 あらゆる
 かしら
 いふ
 御方の
 あらゆる
 かしら
 いふ
 御方の
 あらゆる
 かしら
 いふ

右の御方
 あらゆる
 かしら
 いふ
 御方の
 あらゆる
 かしら
 いふ
 御方の
 あらゆる
 かしら
 いふ
 御方の
 あらゆる
 かしら
 いふ
 御方の
 あらゆる
 かしら
 いふ



左の御方
 あらゆる
 かしら
 いふ
 御方の
 あらゆる
 かしら
 いふ
 御方の
 あらゆる
 かしら
 いふ
 御方の
 あらゆる
 かしら
 いふ
 御方の
 あらゆる
 かしら
 いふ



夜中

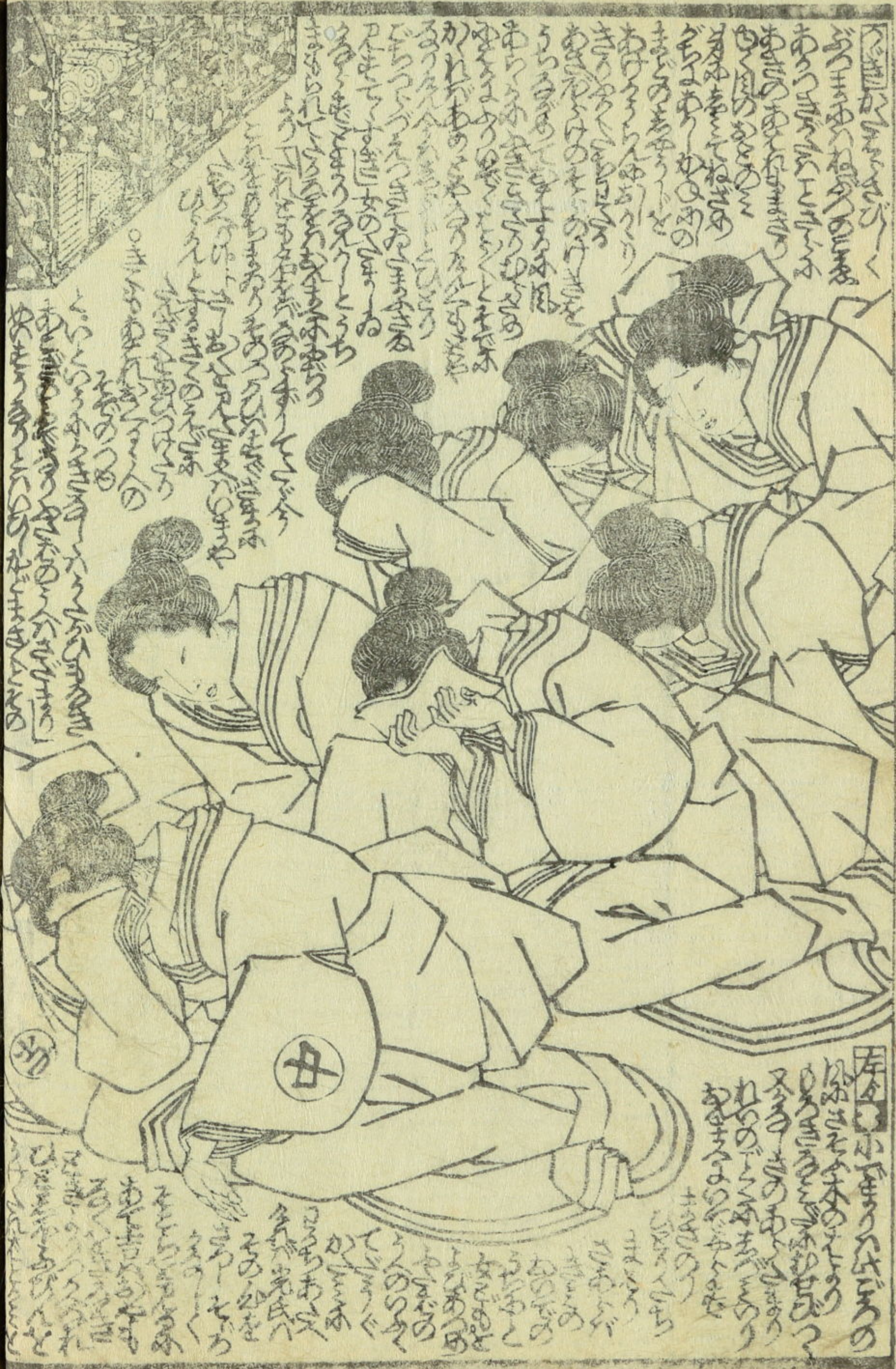
あつちのゆめをいふとあつちのあつちの
夜中あつちのゆめをいふとあつちのあつちの
あつちのゆめをいふとあつちのあつちの
あつちのゆめをいふとあつちのあつちの



あつちのゆめをいふとあつちのあつちの
夜中あつちのゆめをいふとあつちのあつちの
あつちのゆめをいふとあつちのあつちの
あつちのゆめをいふとあつちのあつちの

あつちのゆめをいふとあつちのあつちの
夜中あつちのゆめをいふとあつちのあつちの
あつちのゆめをいふとあつちのあつちの
あつちのゆめをいふとあつちのあつちの

あつちのゆめをいふとあつちのあつちの



Handwritten text in the upper right section of the page, likely describing the scene or characters.

Handwritten text in the middle section of the page, continuing the narrative or commentary.

Handwritten text in the lower right section of the page, possibly a concluding note or a specific reference.



Handwritten text in the upper left section of the page, describing the scene.

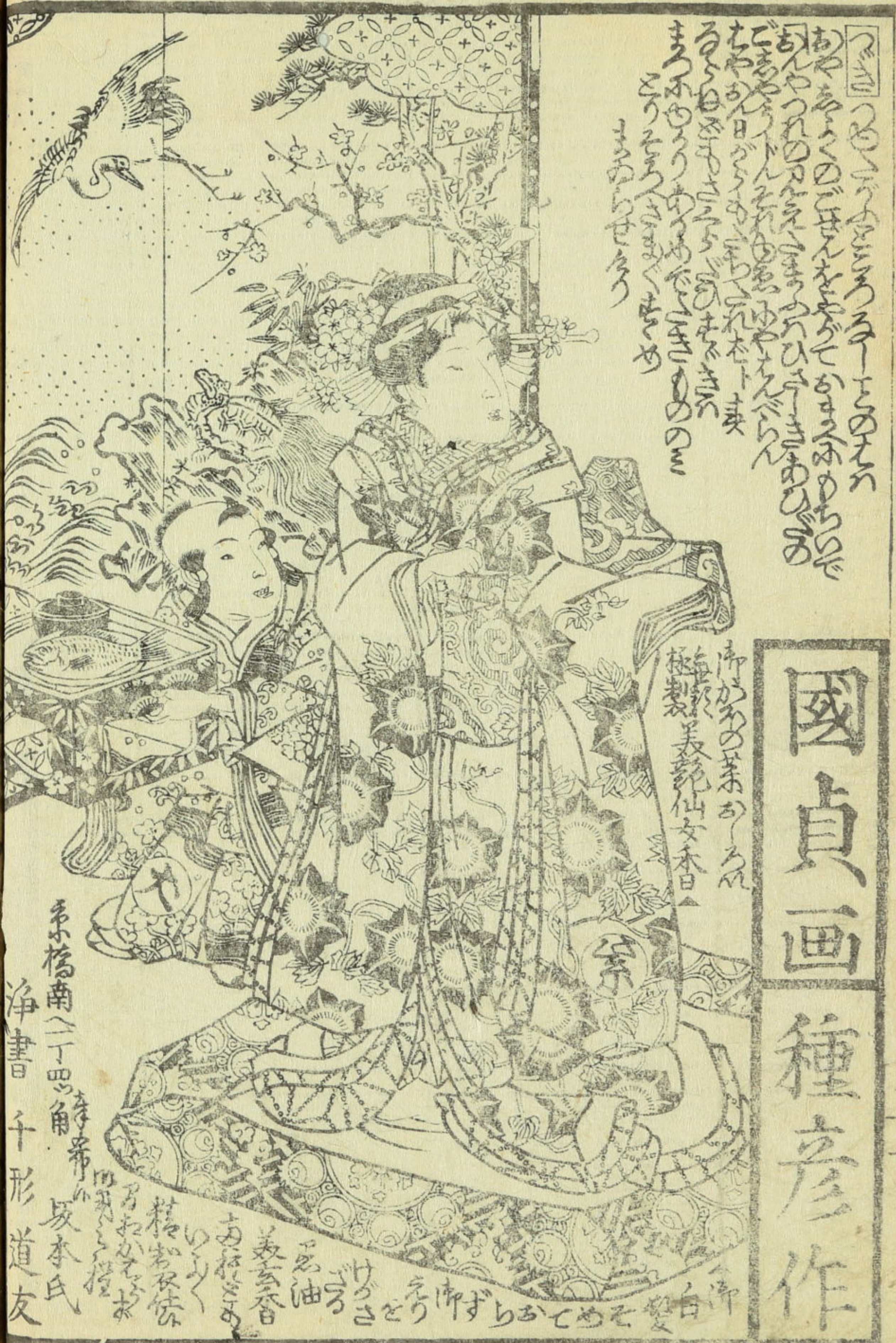
Handwritten text in the middle section of the page, providing commentary on the illustration.

Handwritten text in the lower left section of the page, including a signature or date.



十四編上

種彦作



ついでに...
 あら...
 ち...
 ま...
 ま...
 ま...

國貞画種彦作

所...
 極...
 美...
 仙...
 女...
 未...
 日...

系橋南二丁四角
 浄書 千形道友

白...
 り...
 り...
 油...
 香...
 精...
 友...



田舎源氏
第十四編 上冊
仙雀堂梓

一

修紫田舎源氏第十四編
十月の牡丹餅何の板置意ハ。其ハ喰子に喰。其昔の
謎語あり。そのあつ編の彼子の子の餅云周の大事の一ツめて
揚名之女宿直袋赤本作者の知事するねと略て其筋が解を
久謎と案のつき。其のあつ羽のあつと拙落宿直袋の深川の
名れのつき。麻風品教さて吉原の仕舞礼身あつとて種彦と
當を定めの名を書きそ揚名をあると。たつとあつけあつとて
物るれこのまの作れと當を説ハ三つあつて四冊は綴りて
かゝるふとてそのせまのまて既ハ十四編予が面をき多知ぬ板元ハ
あつとて初のとて日擇とて賣出をも最とてかま

天保し未春

柳亭種彦

京大一日編

阿古木
あこぎ



神姫の

志願の

杉の

の爪

いさほえそ

とねさうあせ

空衣
あそぎ





くつある日光は
 こもるあまのついで
 らんらんわたりて
 うららかにあそぶ
 らんらんわたりて
 うららかにあそぶ
 らんらんわたりて
 うららかにあそぶ
 らんらんわたりて
 うららかにあそぶ

あつたは
 こもるあまのついで
 らんらんわたりて
 うららかにあそぶ
 らんらんわたりて
 うららかにあそぶ

あつたは
 こもるあまのついで
 らんらんわたりて
 うららかにあそぶ
 らんらんわたりて
 うららかにあそぶ

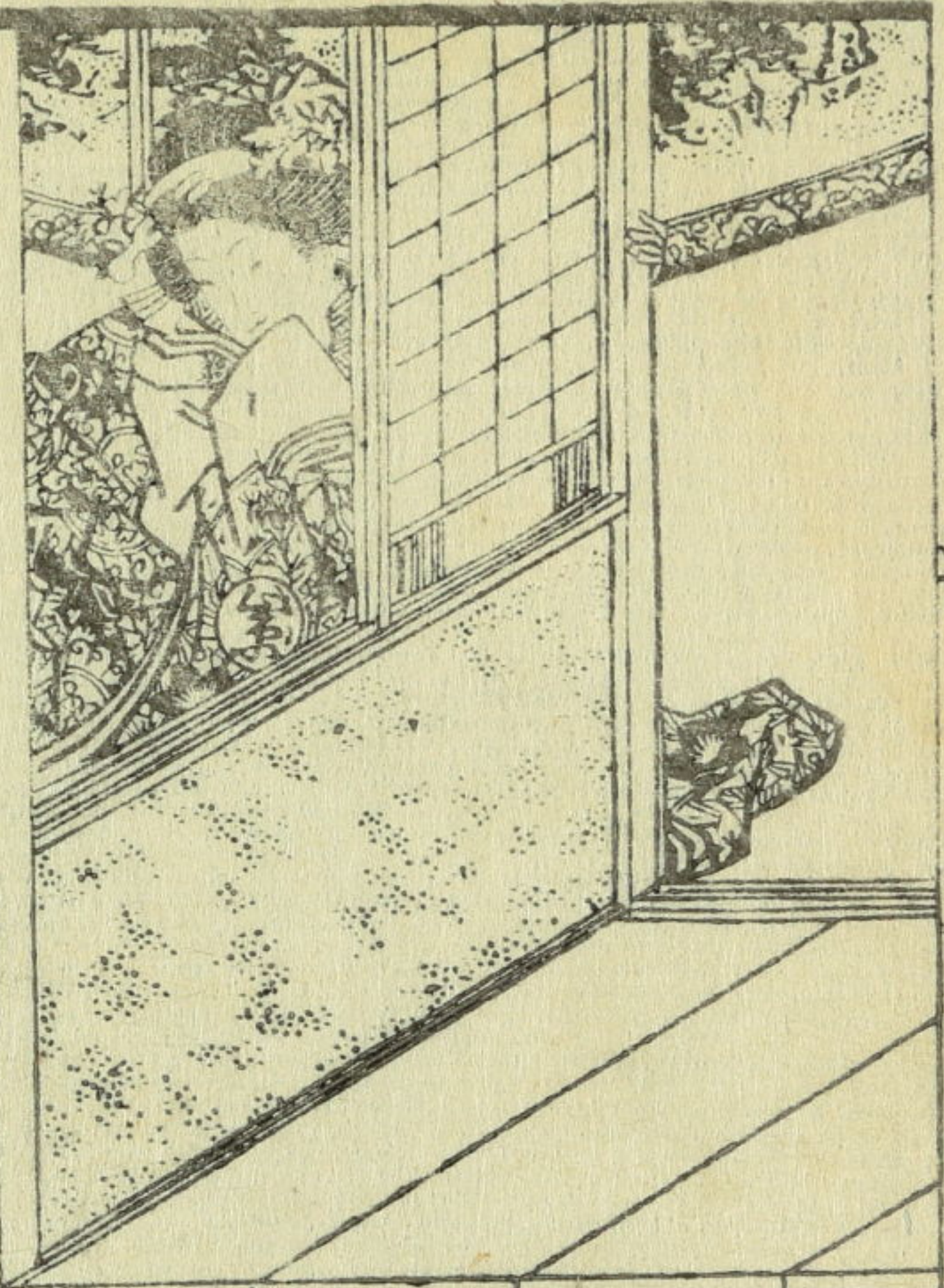
あつたは
 こもるあまのついで
 らんらんわたりて
 うららかにあそぶ
 らんらんわたりて
 うららかにあそぶ
 らんらんわたりて
 うららかにあそぶ
 らんらんわたりて
 うららかにあそぶ



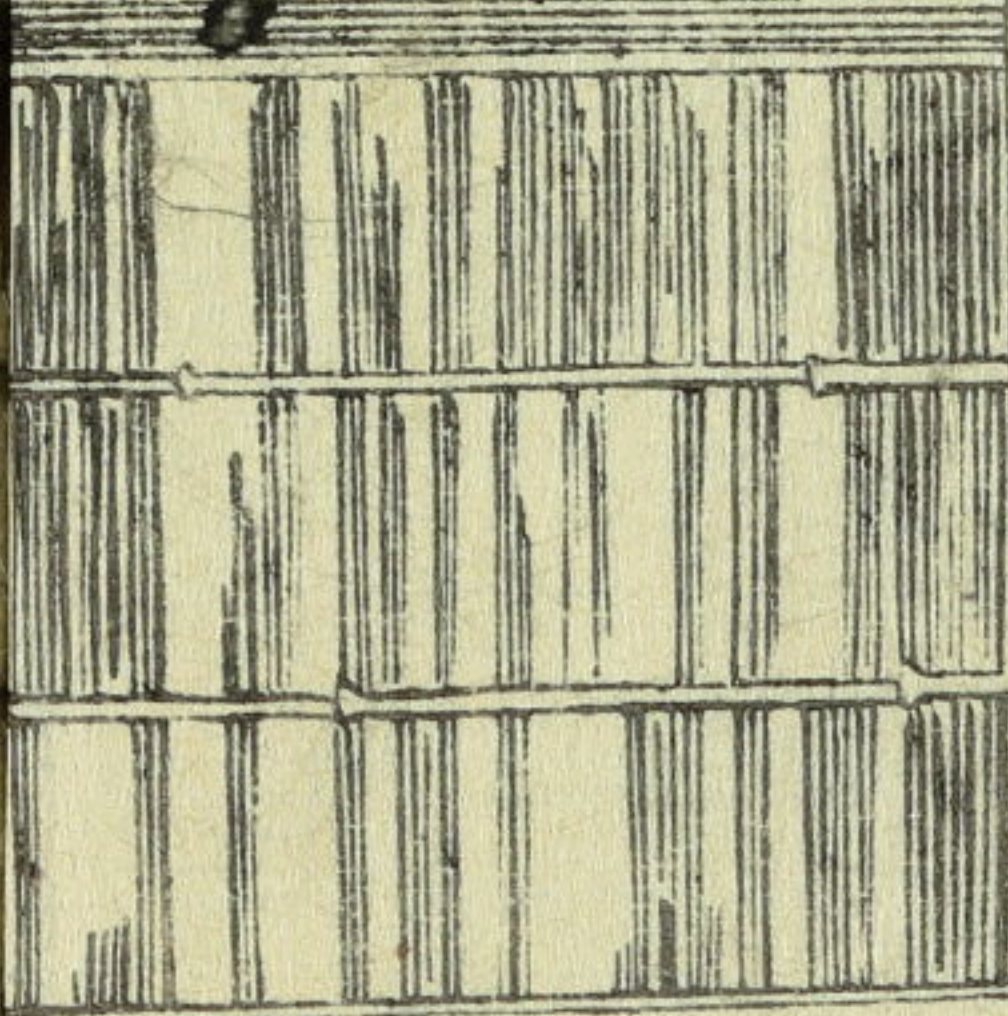
あつたは
 こもるあまのついで
 らんらんわたりて
 うららかにあそぶ
 らんらんわたりて
 うららかにあそぶ
 らんらんわたりて
 うららかにあそぶ
 らんらんわたりて
 うららかにあそぶ

あつたは
 こもるあまのついで
 らんらんわたりて
 うららかにあそぶ
 らんらんわたりて
 うららかにあそぶ
 らんらんわたりて
 うららかにあそぶ

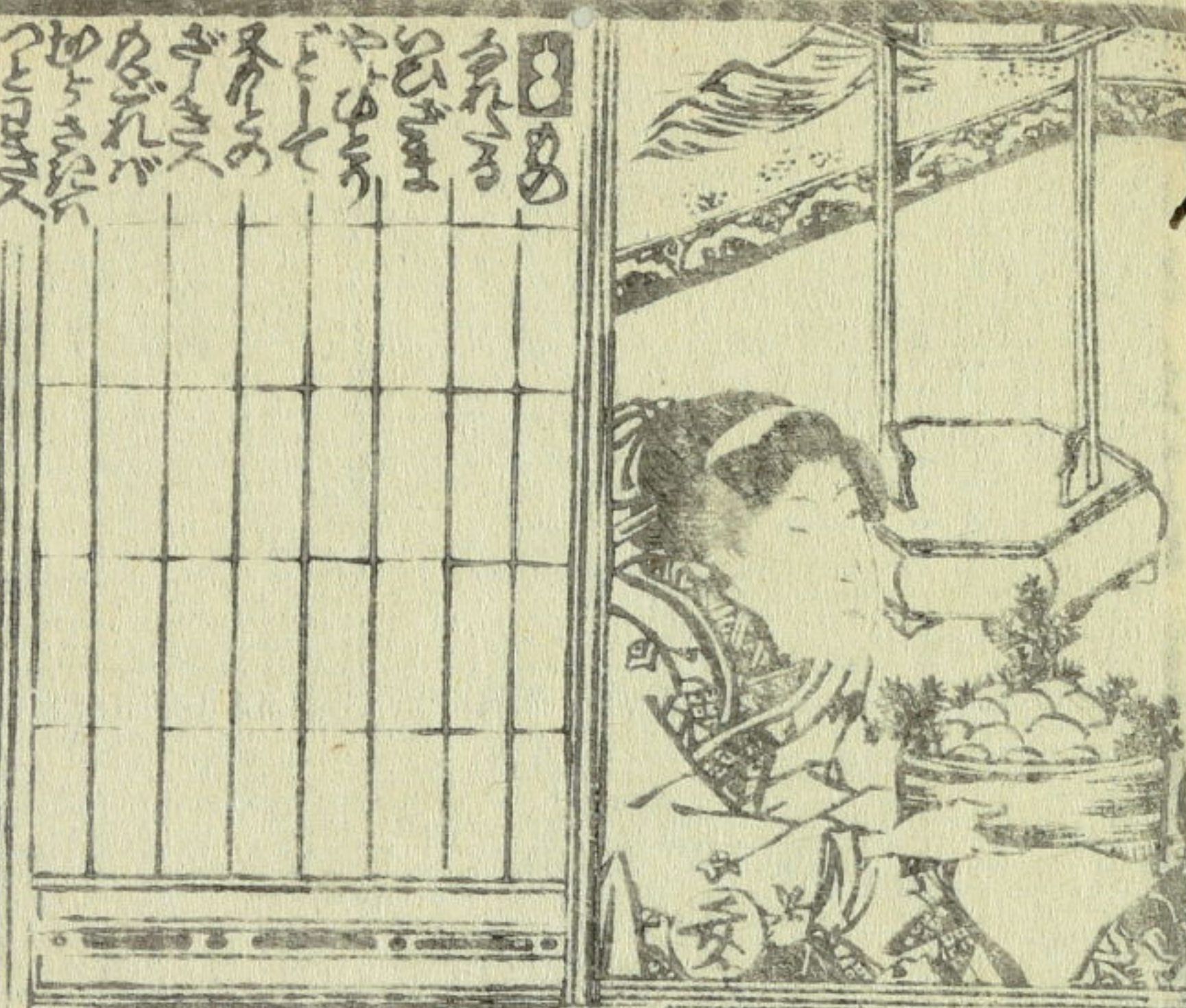
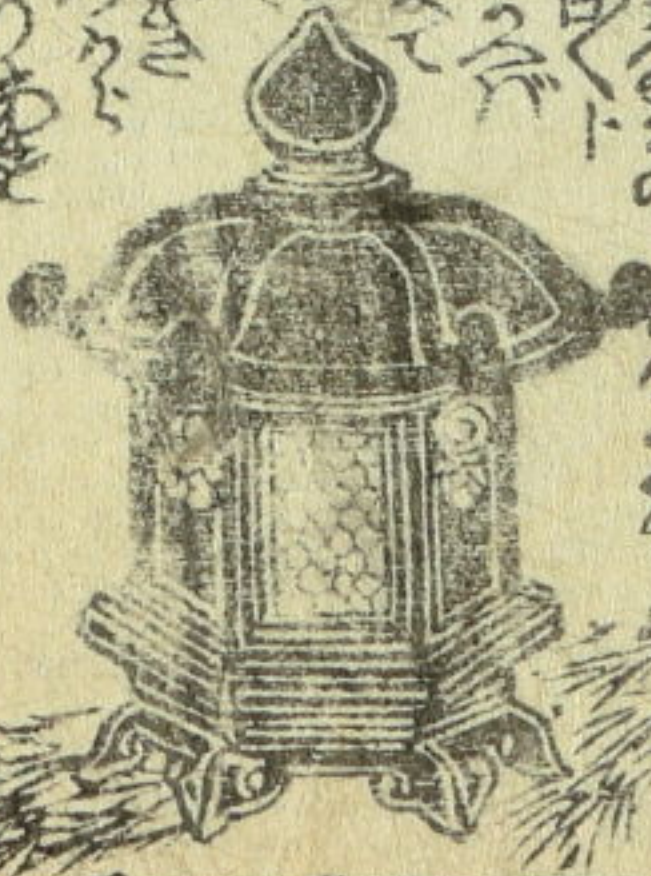
あつたは
 こもるあまのついで
 らんらんわたりて
 うららかにあそぶ
 らんらんわたりて
 うららかにあそぶ
 らんらんわたりて
 うららかにあそぶ
 らんらんわたりて
 うららかにあそぶ



源氏十四卷
此段文字描述了一位女子在窗边的场景，文字为竖排，从右至左。



源氏十四卷
此段文字描述了一位女子在窗边的场景，文字为竖排，从右至左。

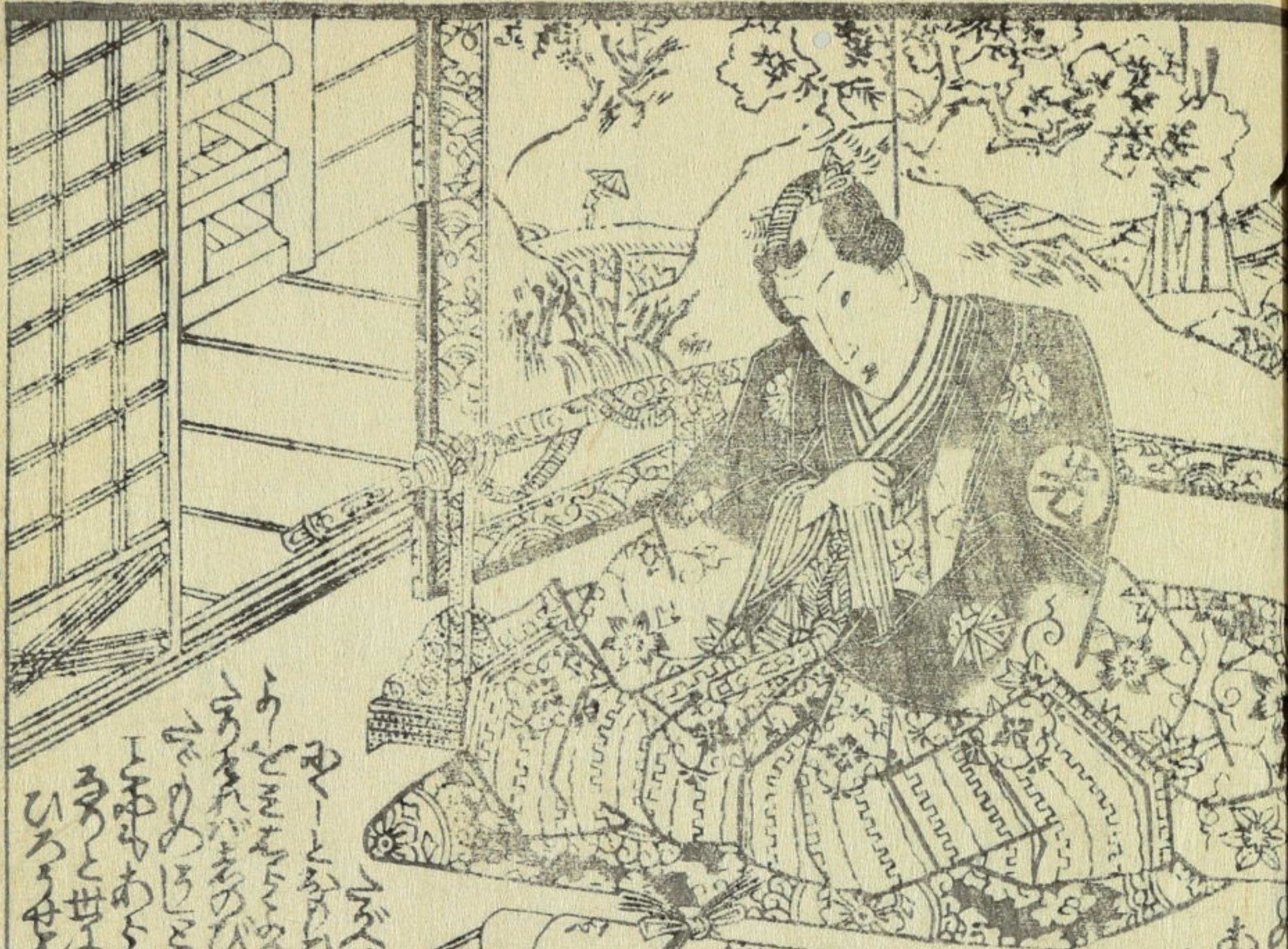


源氏十四卷
此段文字描述了一位女子在窗边的场景，文字为竖排，从右至左。

源氏十四卷
此段文字描述了一位女子在窗边的场景，文字为竖排，从右至左。

源氏十四卷
此段文字描述了一位女子在窗边的场景，文字为竖排，从右至左。

源氏十四卷
此段文字描述了一位女子在窗边的场景，文字为竖排，从右至左。



Handwritten text in the left margin of the top page, written vertically.

第五十四編



Handwritten text in the left margin of the bottom page, written vertically.



Extensive handwritten text in the right margin of the bottom page, written vertically.

空衣野中の別荘の河古水

空衣野中の別荘の河古水



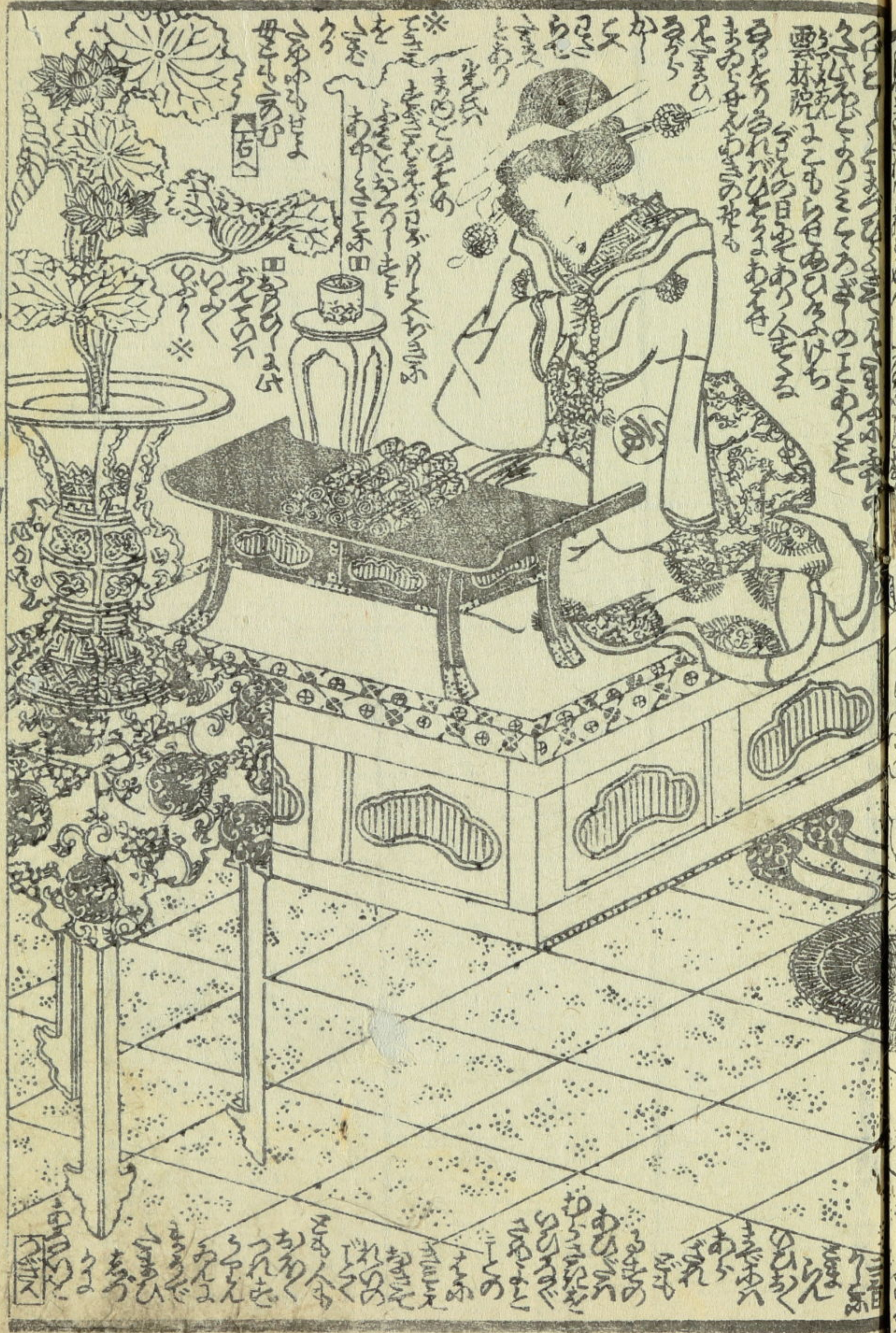
空衣野中の別荘の河古水



空衣野中の別荘の河古水



空衣野中の別荘の河古水



THE ROOM



THE ROOM

Handwritten text in the top margin of the left page, written in vertical columns.



Handwritten text in the bottom margin of the left page, written in vertical columns.

Handwritten text in the top margin of the right page, written in vertical columns.



Handwritten text in the bottom margin of the right page, written in vertical columns.

淳和離宮也紫式部
墓所林院南

河海虎

宗治
宝曆



Handwritten text in the upper left corner of the right page, likely a commentary or description related to the illustration.

Handwritten text in the lower right corner of the right page, continuing the commentary.



Handwritten text in the upper left corner of the left page, providing commentary on the illustration.

Handwritten text in the lower right corner of the left page, continuing the commentary.

Vertical text on the far left edge of the left page, possibly a page number or a reference.



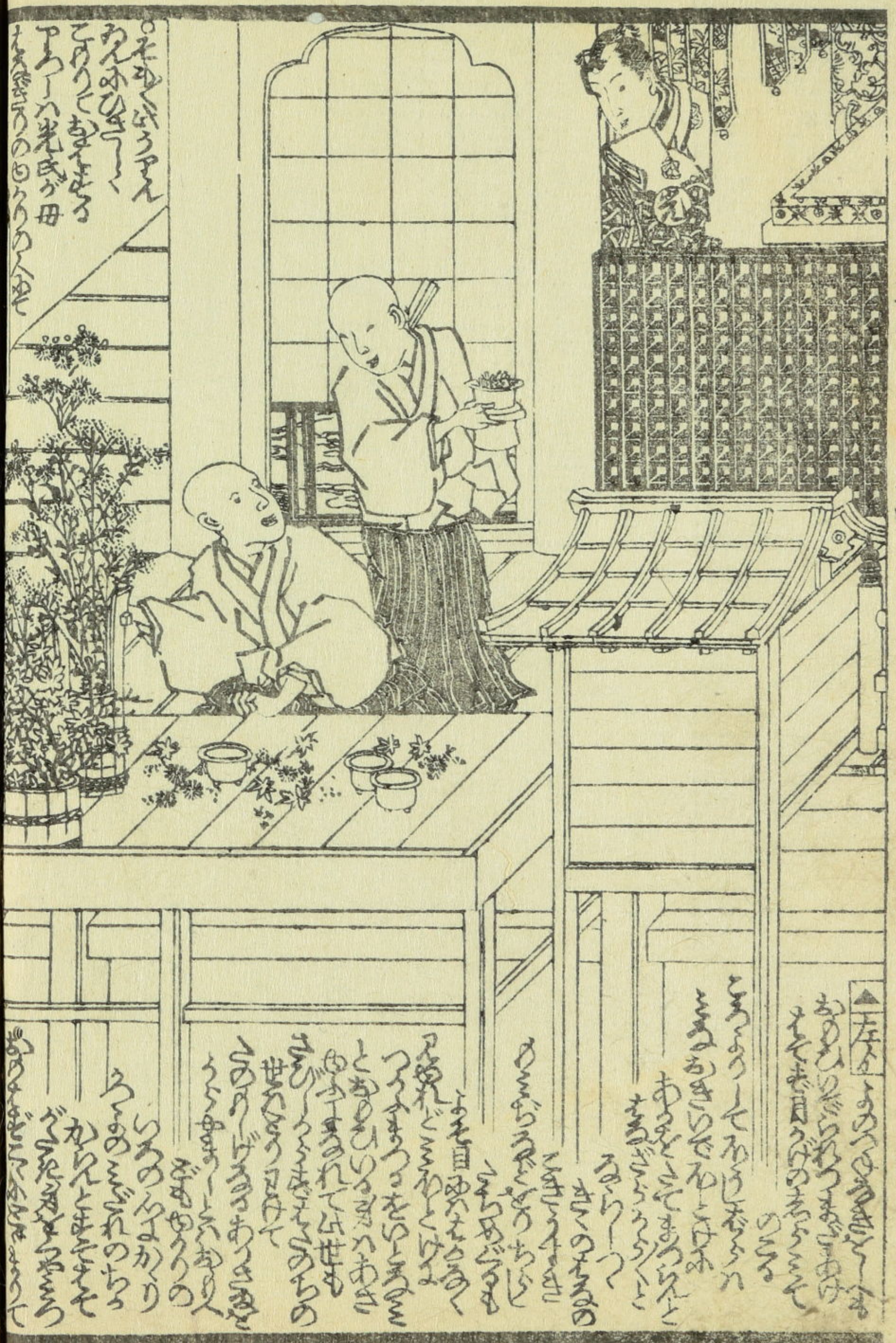
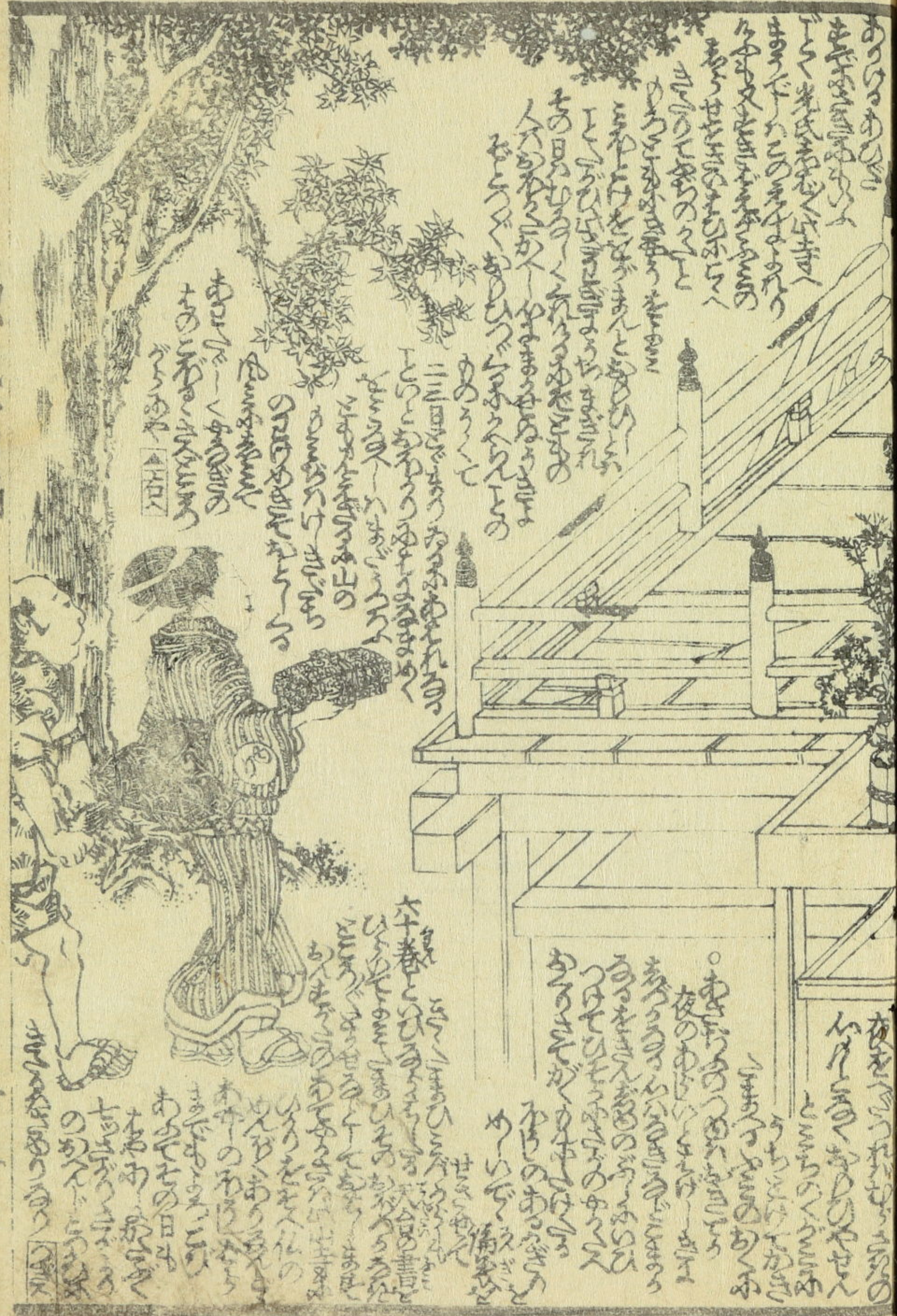
○左 人の言をきくは
これこそおのれ
の心なりてし
やうに

○右 人の言をきくは
これこそおのれ
の心なりてし
やうに

○左 人の言をきくは
これこそおのれ
の心なりてし
やうに

○左 人の言をきくは
これこそおのれ
の心なりてし
やうに

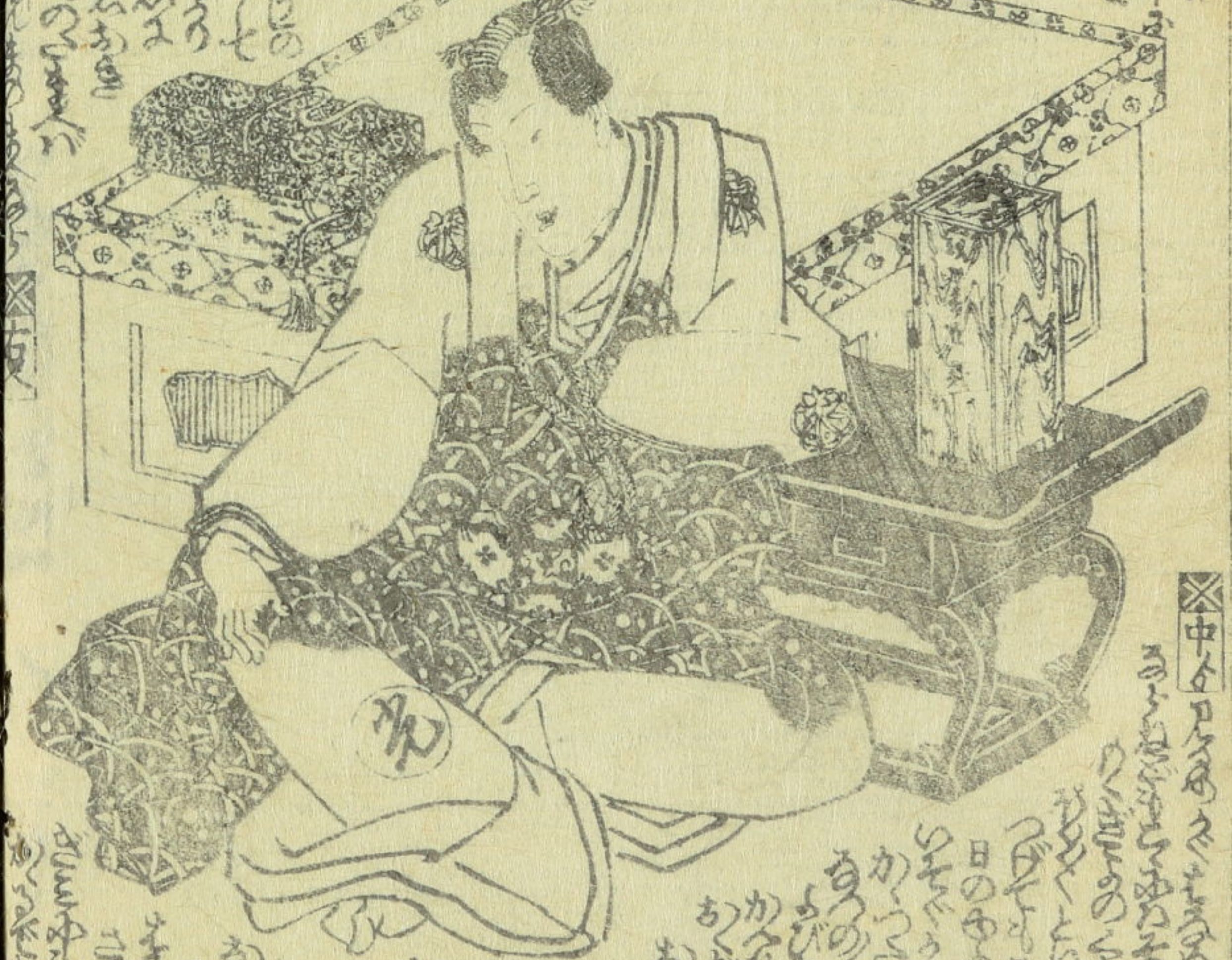




源氏一四

源氏一四

Vertical columns of handwritten text in a cursive style, likely a transcription of a Japanese text.

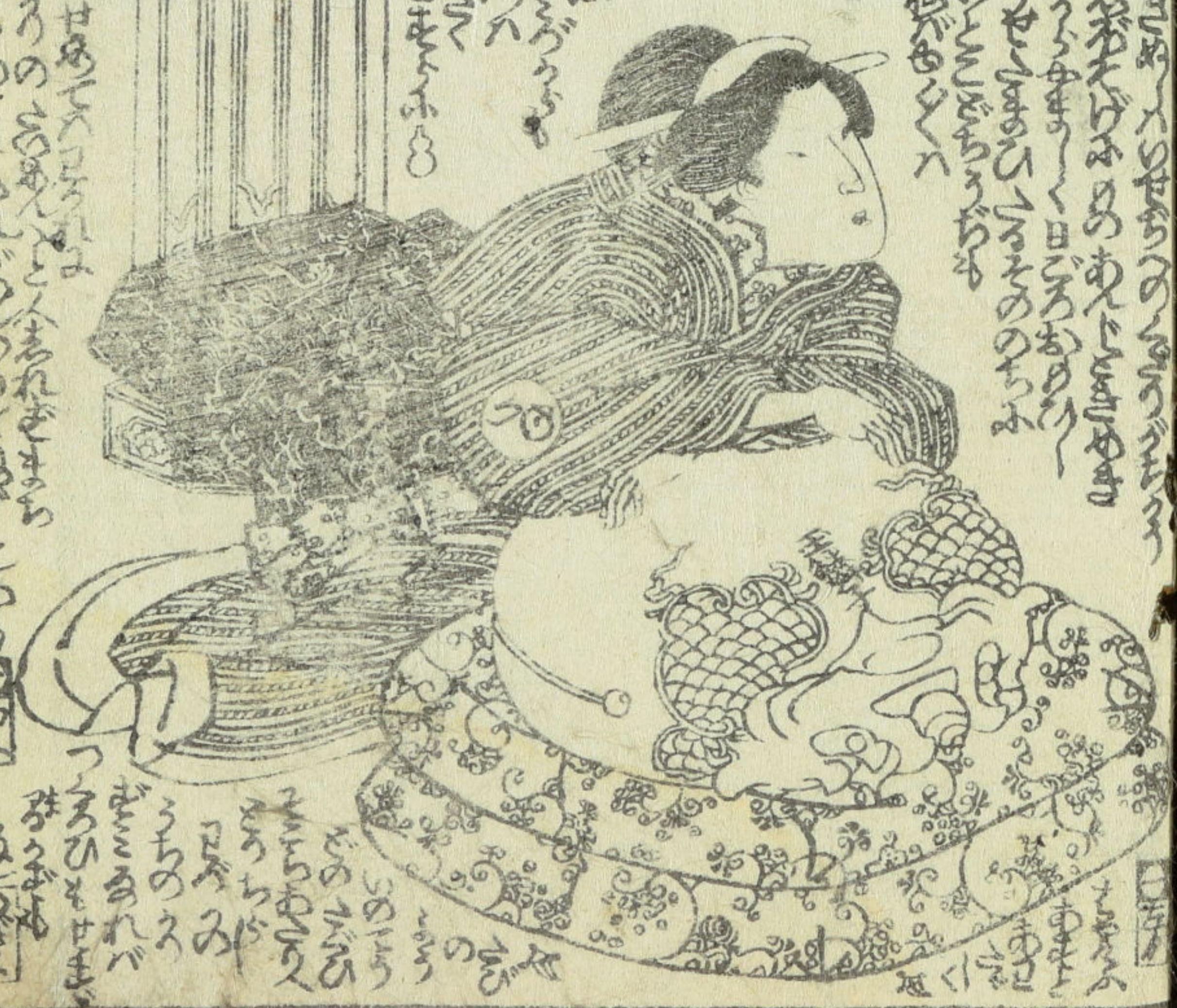
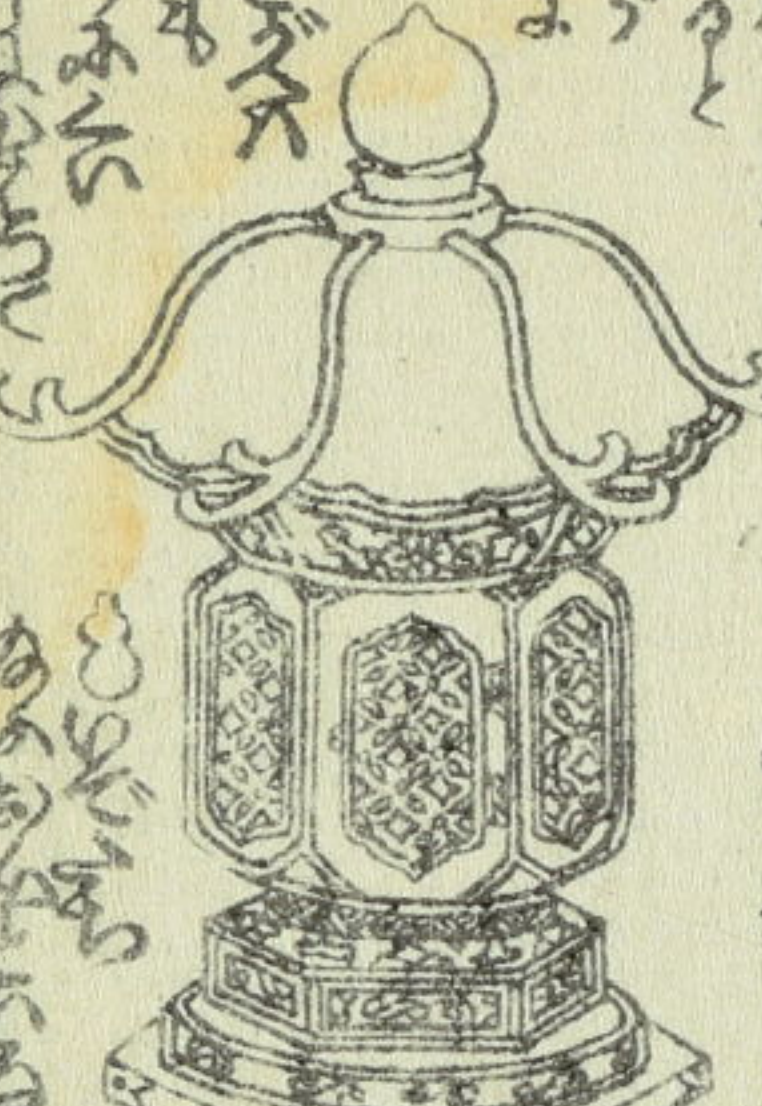


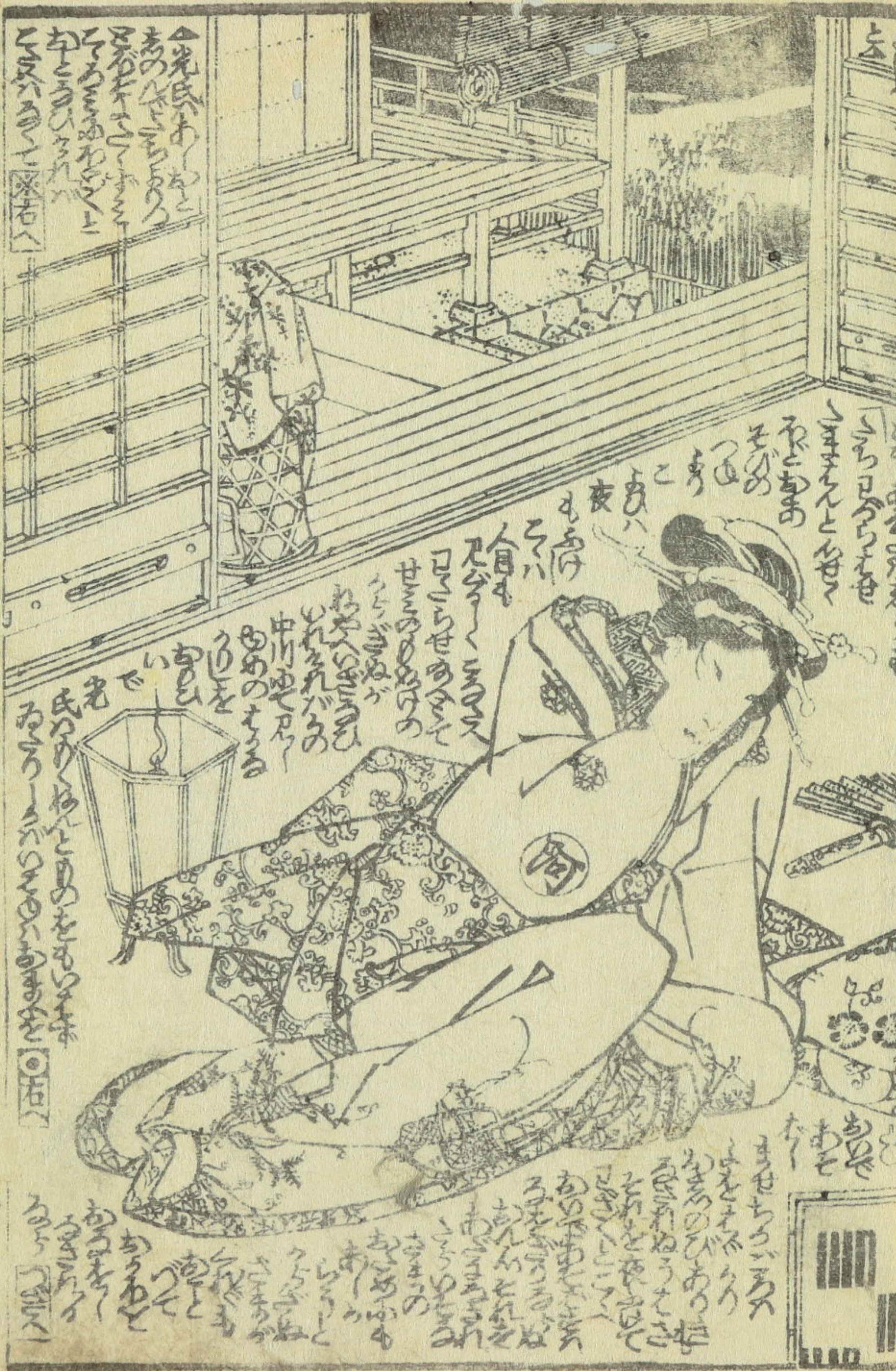
Vertical columns of handwritten text located below the illustration on the right page.

Vertical columns of handwritten text in a cursive style, located at the top of the left page.

Vertical columns of handwritten text located in the middle section of the left page.

Vertical columns of handwritten text located at the bottom of the left page.





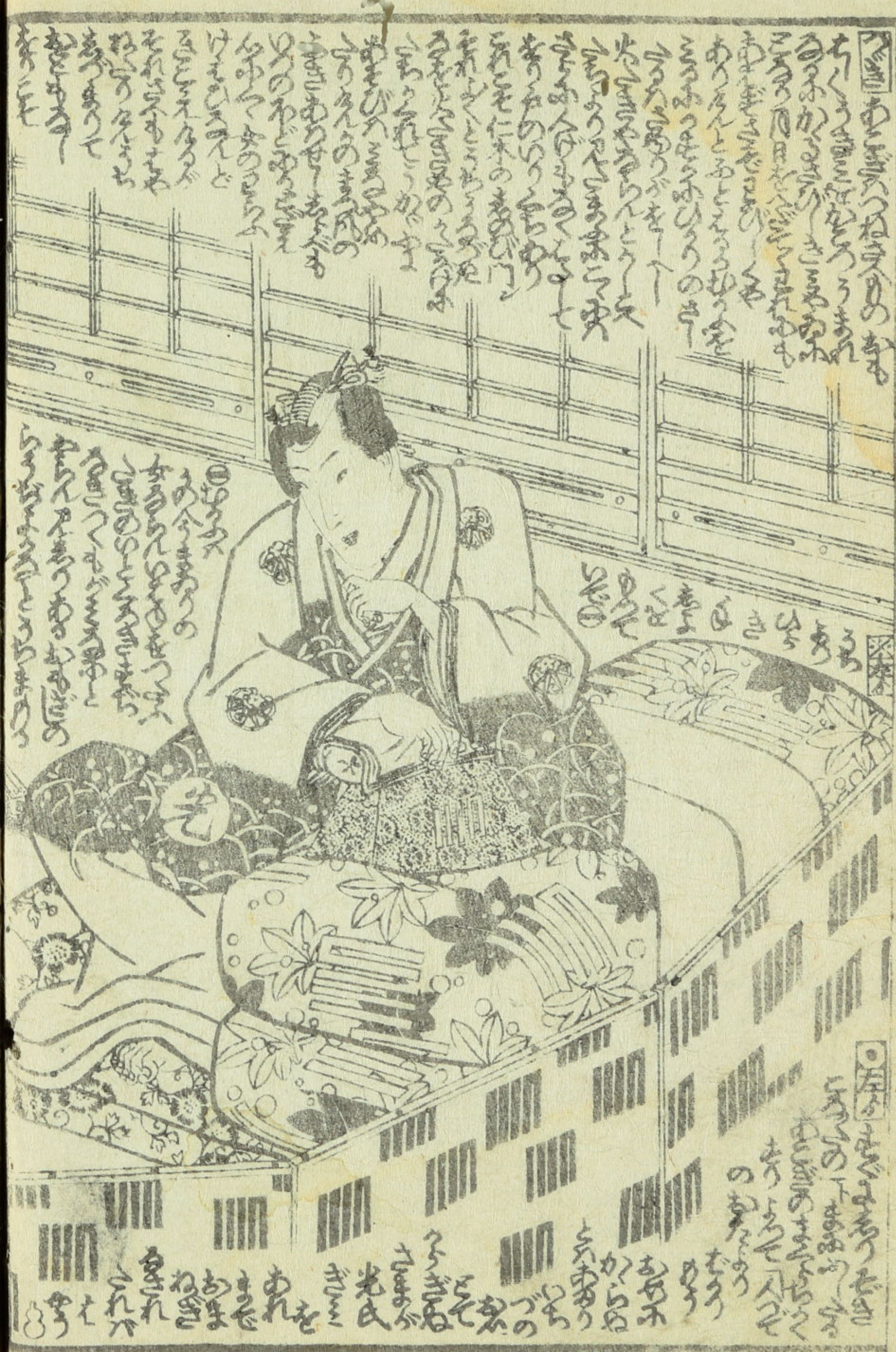
△先氏ありて
あつたてはあつた
あつたてはあつた
あつたてはあつた
あつたてはあつた
あつたてはあつた

原入一四冊

△先氏ありて
あつたてはあつた
あつたてはあつた
あつたてはあつた
あつたてはあつた
あつたてはあつた

△先氏ありて
あつたてはあつた
あつたてはあつた
あつたてはあつた
あつたてはあつた
あつたてはあつた

△先氏ありて
あつたてはあつた
あつたてはあつた
あつたてはあつた
あつたてはあつた
あつたてはあつた



△先氏ありて
あつたてはあつた
あつたてはあつた
あつたてはあつた
あつたてはあつた
あつたてはあつた

原入一四冊

△先氏ありて
あつたてはあつた
あつたてはあつた
あつたてはあつた
あつたてはあつた
あつたてはあつた

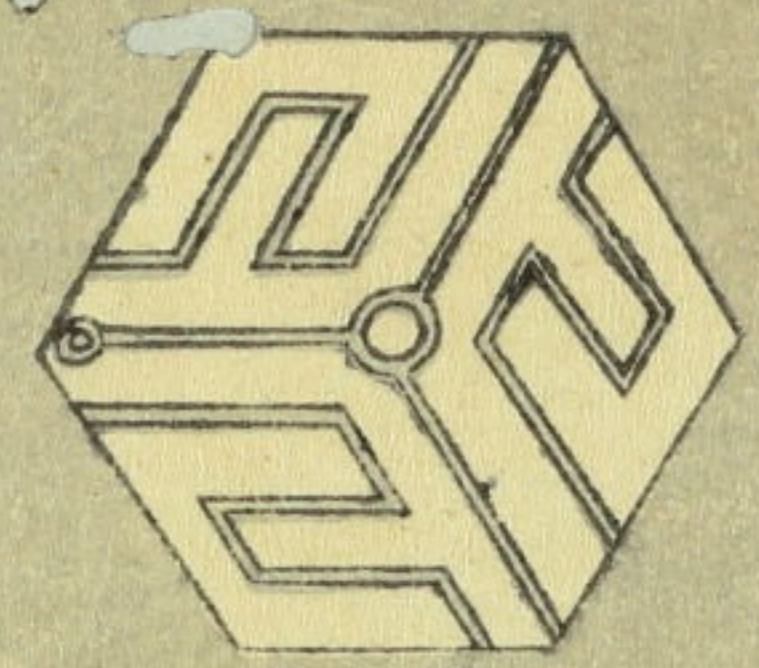
△先氏ありて
あつたてはあつた
あつたてはあつた
あつたてはあつた
あつたてはあつた
あつたてはあつた

△先氏ありて
あつたてはあつた
あつたてはあつた
あつたてはあつた
あつたてはあつた
あつたてはあつた

倦ぬ物の菜汁月夜小黒小袖忠臣蔵源氏なれども玉味端で
 葉を付て喰む。忠臣蔵も下るふかると猪のうさぎのうさぎ
 逃れを鑛炮場定九郎の名がはのう黒羽二重も本郷小方なり
 あの源氏もその類で傍紫の和る表のうらのの日の徳仁記の
 隠し裏仕立のげの七年前新しいまじふも祠の艶るま田舎織
 まして名振向の古着とる彼紫の色もあせ。そろく筋のましかを
 十五編まで発行色紙よ書を發行句の贈答もよを遠ひは端を忠
 臣蔵に禮艶る文を片言の解分る赤むる黒くも及ぶるうら
 是うらむらう。季のかさうの月夜は瀬戸の巻物に
 りのふ移らな軽く筆も走りん。ちるあるまをと衿垢の繕をも
 その候もまら

柳亭種彦

源氏物語



田舎源氏

田舎源氏 十五編 上冊

柳亭種彦作

歌川國貞画

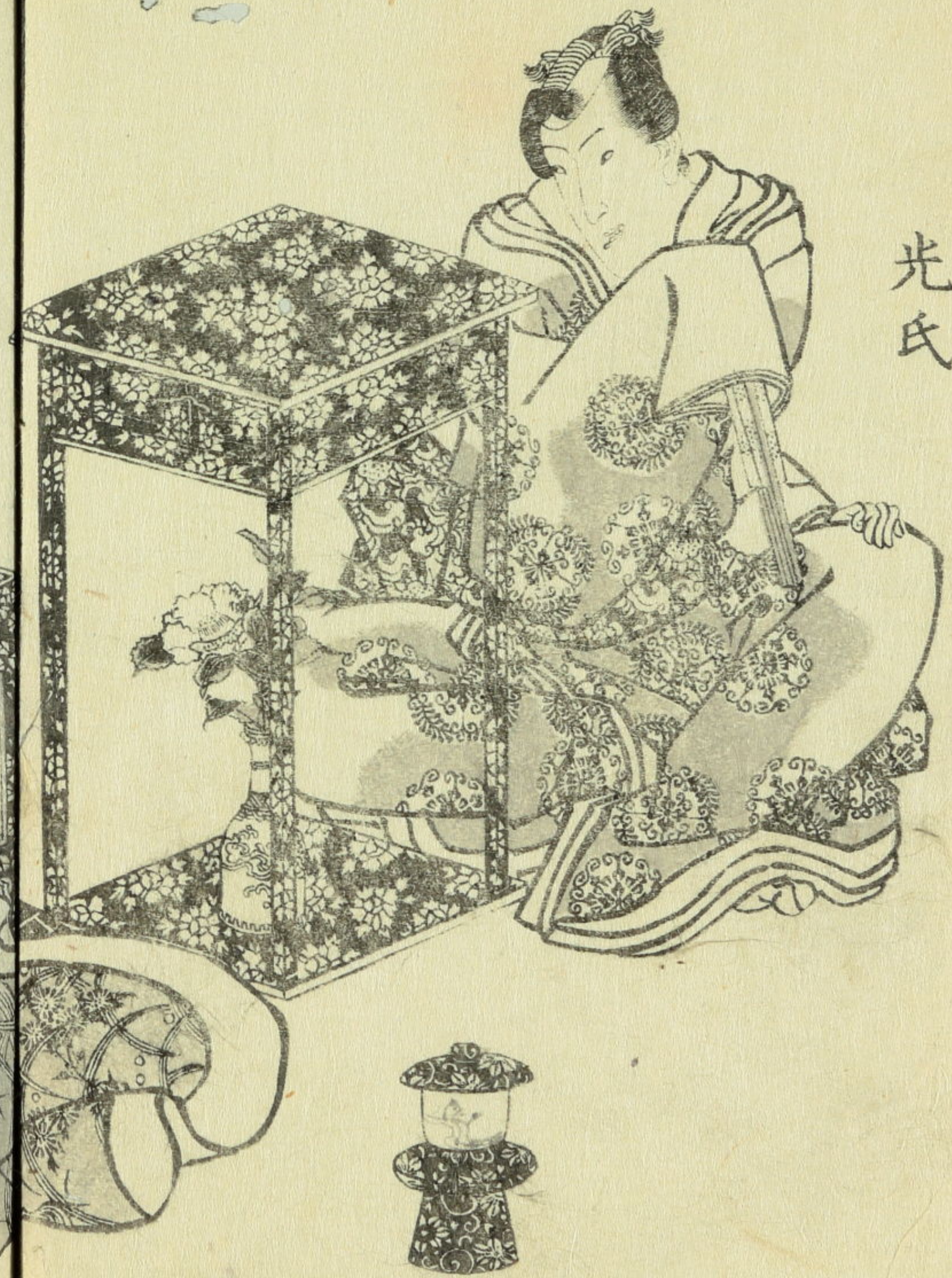
仙雀堂製

仙雀堂製

仙雀堂製

足利

光氏



心からうつくし袖と
 物さきさき
 ひくとどろめる
 ままよつけても

あけさつ
 つらさうて
 まくせとや
 ねのあへ
 けそとふる

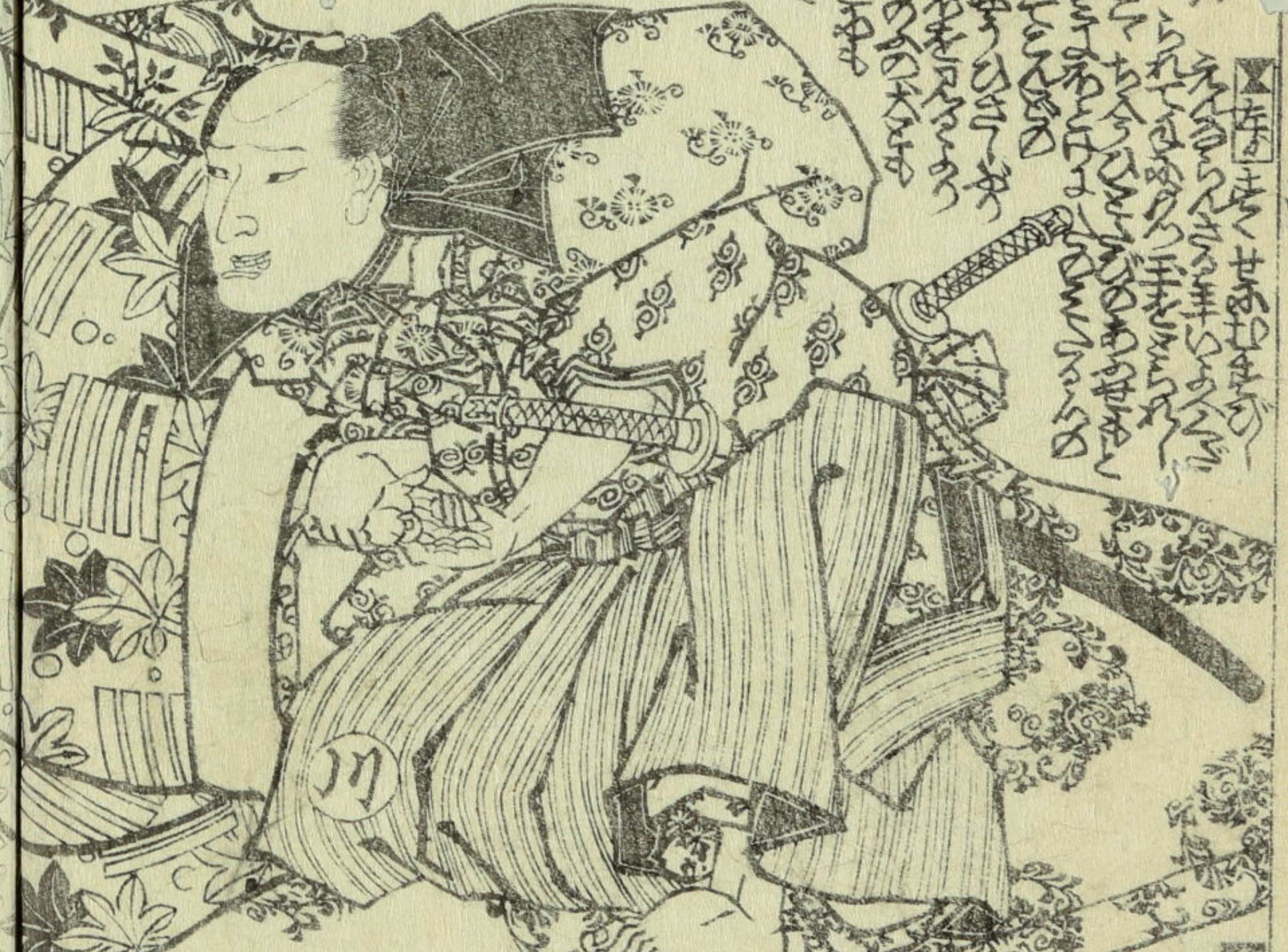
桂樹

瘡



京六十一

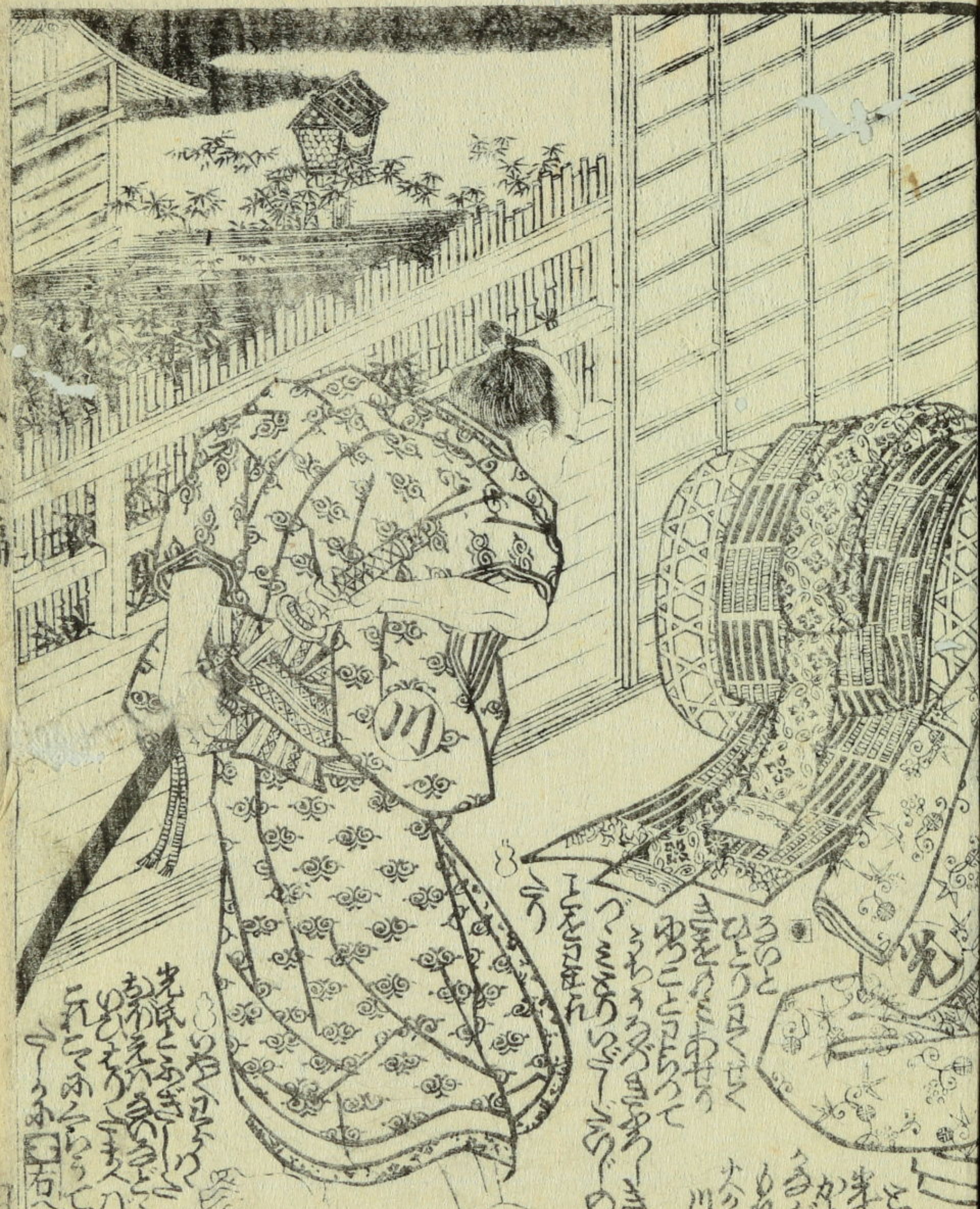
Handwritten text in the upper right section, likely a commentary or a specific chapter section.



Handwritten text in the lower right section, continuing the commentary or narrative.



Handwritten text in the lower left section, providing further commentary or narrative.



先夫のお墓へ行
くお供えする
のついでに
元々お墓の
てらふ
右

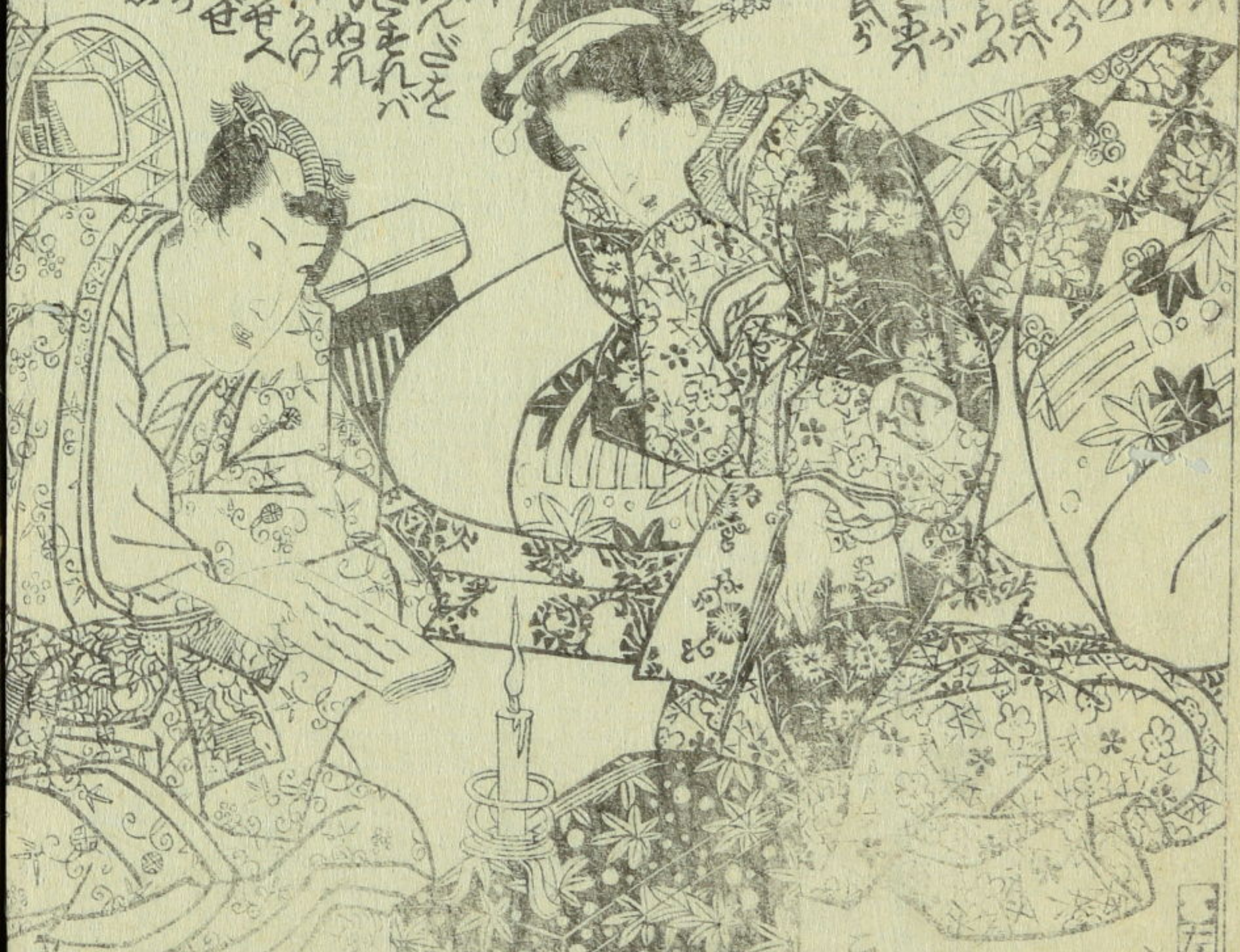
ひびきの
お供え
お墓
のついで
元々
お墓
のついで
元々

あやう
のついで
元々
お墓
のついで
元々

先夫のお墓
へ行く
お供え
する
のついで
に
元々
お墓
のついで
元々

あやう
のついで
元々
お墓
のついで
元々

お供えする
のついで
元々
お墓
のついで
元々

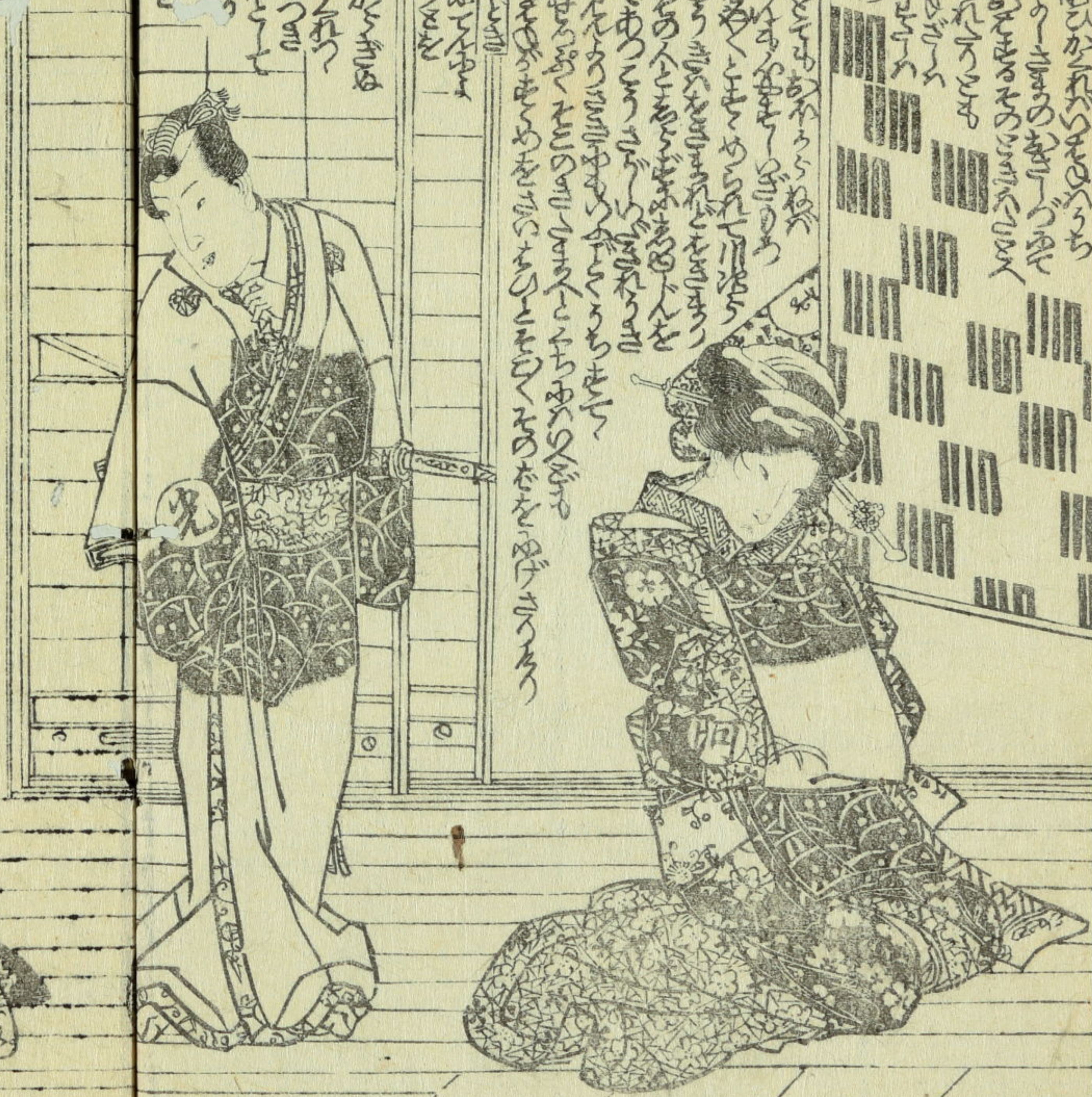


あやう
のついで
元々
お墓
のついで
元々

源氏物語の一場を写したもので、右側に十二の卦象が縦に並べられている。各卦象は三本の線（陽爻と陰爻）で構成されている。

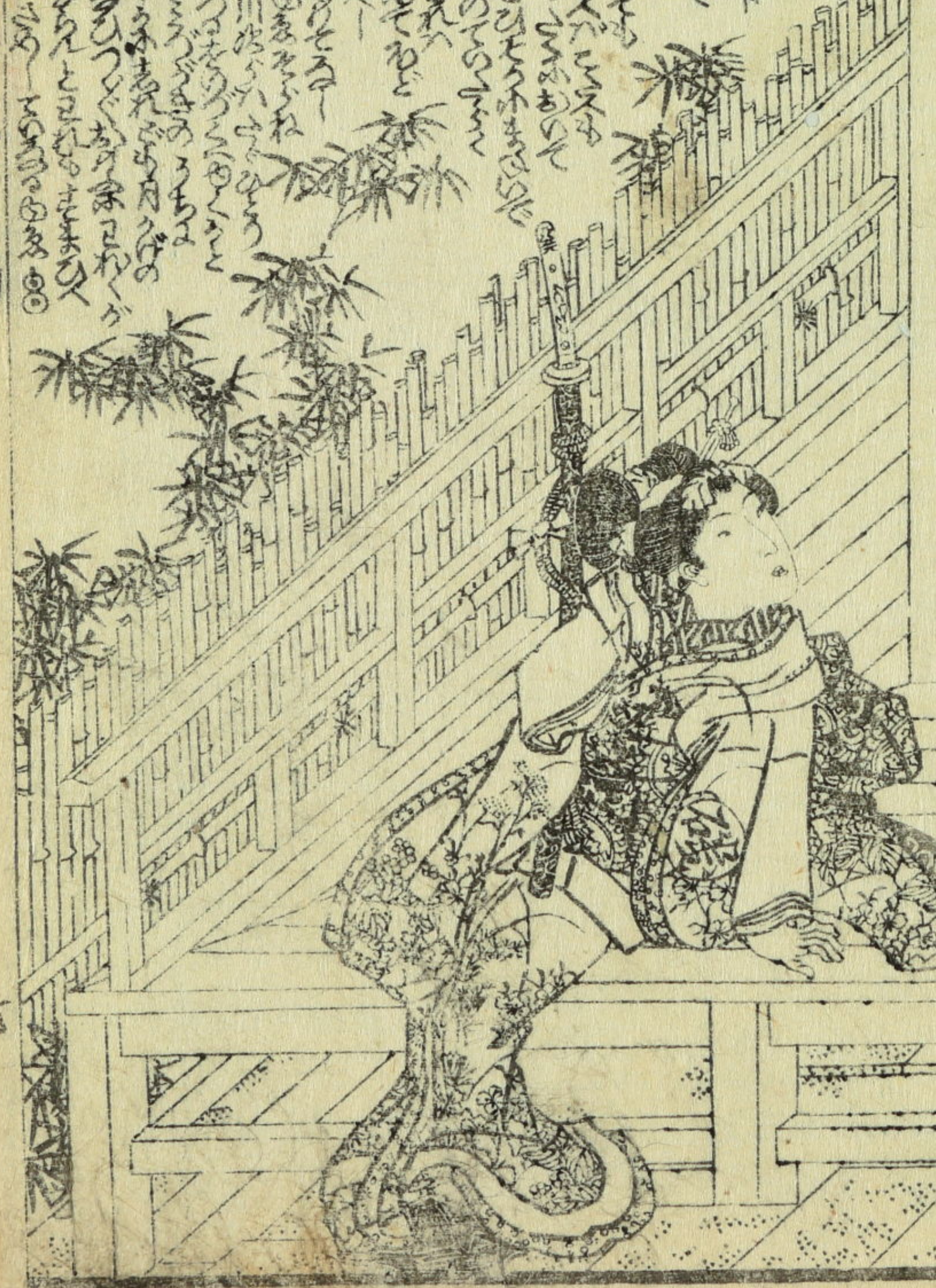
源氏物語の一場を写したもので、右側に十二の卦象が縦に並べられている。各卦象は三本の線（陽爻と陰爻）で構成されている。

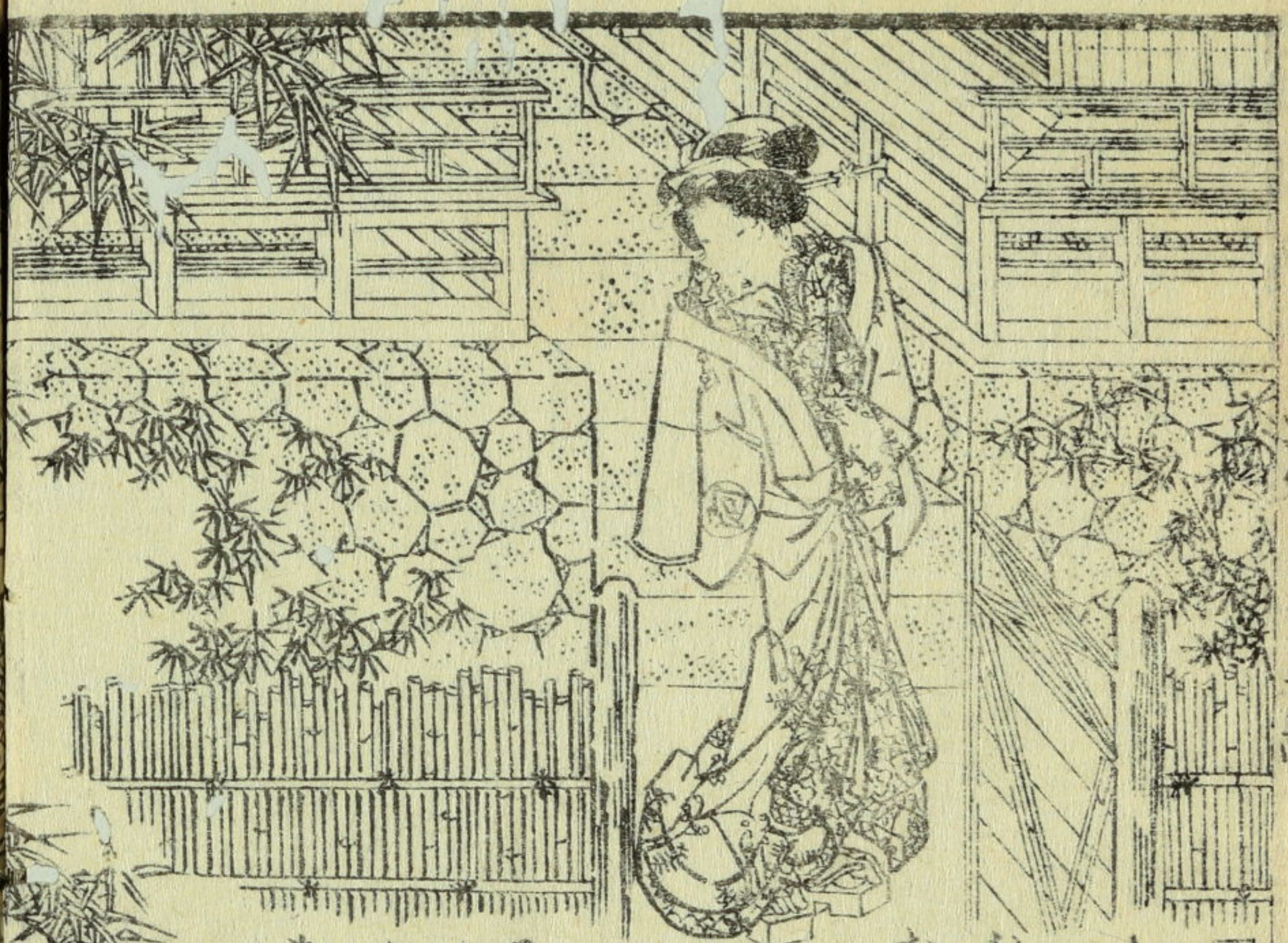
源氏物語の一場を写したもので、右側に十二の卦象が縦に並べられている。各卦象は三本の線（陽爻と陰爻）で構成されている。



源氏物語の一場を写したもので、右側に十二の卦象が縦に並べられている。各卦象は三本の線（陽爻と陰爻）で構成されている。

源氏物語の一場を写したもので、右側に十二の卦象が縦に並べられている。各卦象は三本の線（陽爻と陰爻）で構成されている。





わがやうな女ありては...
あはれなるものありては...
あはれなるものありては...
あはれなるものありては...
あはれなるものありては...



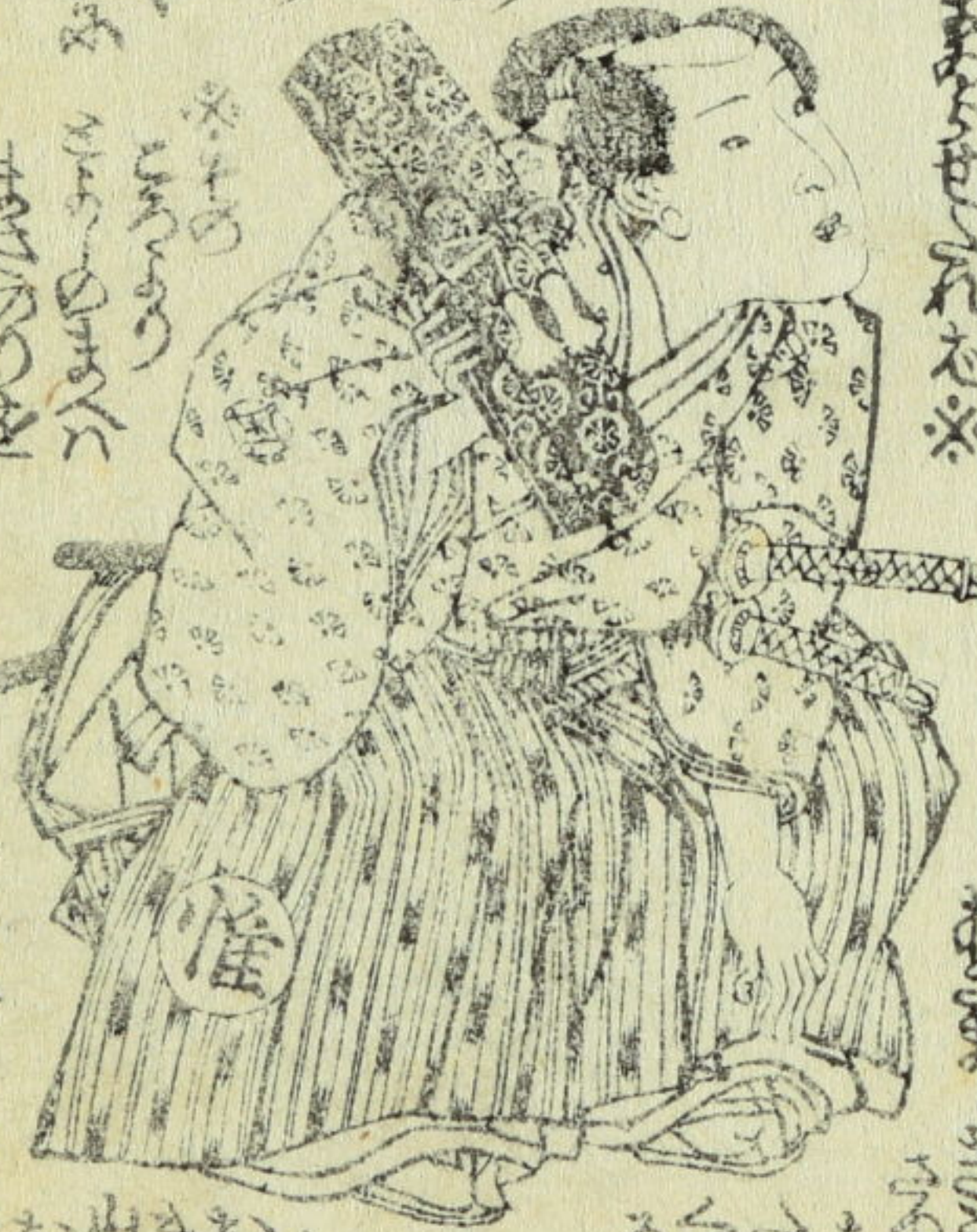
あはれなるものありては...
あはれなるものありては...
あはれなるものありては...
あはれなるものありては...
あはれなるものありては...

Handwritten text in a cursive script, arranged in vertical columns across the top and right sides of the page. The text appears to be a detailed record of events or a narrative.



Handwritten text located at the bottom of the page, below the illustration, continuing the narrative.

Handwritten text in a cursive script, arranged in vertical columns across the top and left sides of the page. The text appears to be a detailed record of events or a narrative.



Handwritten text located at the bottom of the page, below the illustration, continuing the narrative.

大書

大書の... 大書の... 大書の...

消息往来詳註 高井蘭山述 全一冊

消息往来世よりの... 消息往来世よりの...

合則 壽福三世相大鑑 全二冊

合則 壽福三世相大鑑 全二冊

奉獨枕言古 中本一冊 山櫻連々 逸軒揺舟作

奉獨枕言古 中本一冊 山櫻連々 逸軒揺舟作

教真草消息往来

隅田川西岸見北齋筆 全三冊

江名所東鑑 蕙齋筆 全三冊

江名所物見 清長筆 全二冊

東海道花の都路 狂歌 全三冊

劇場頭微鏡 黙漢隱作 全二冊

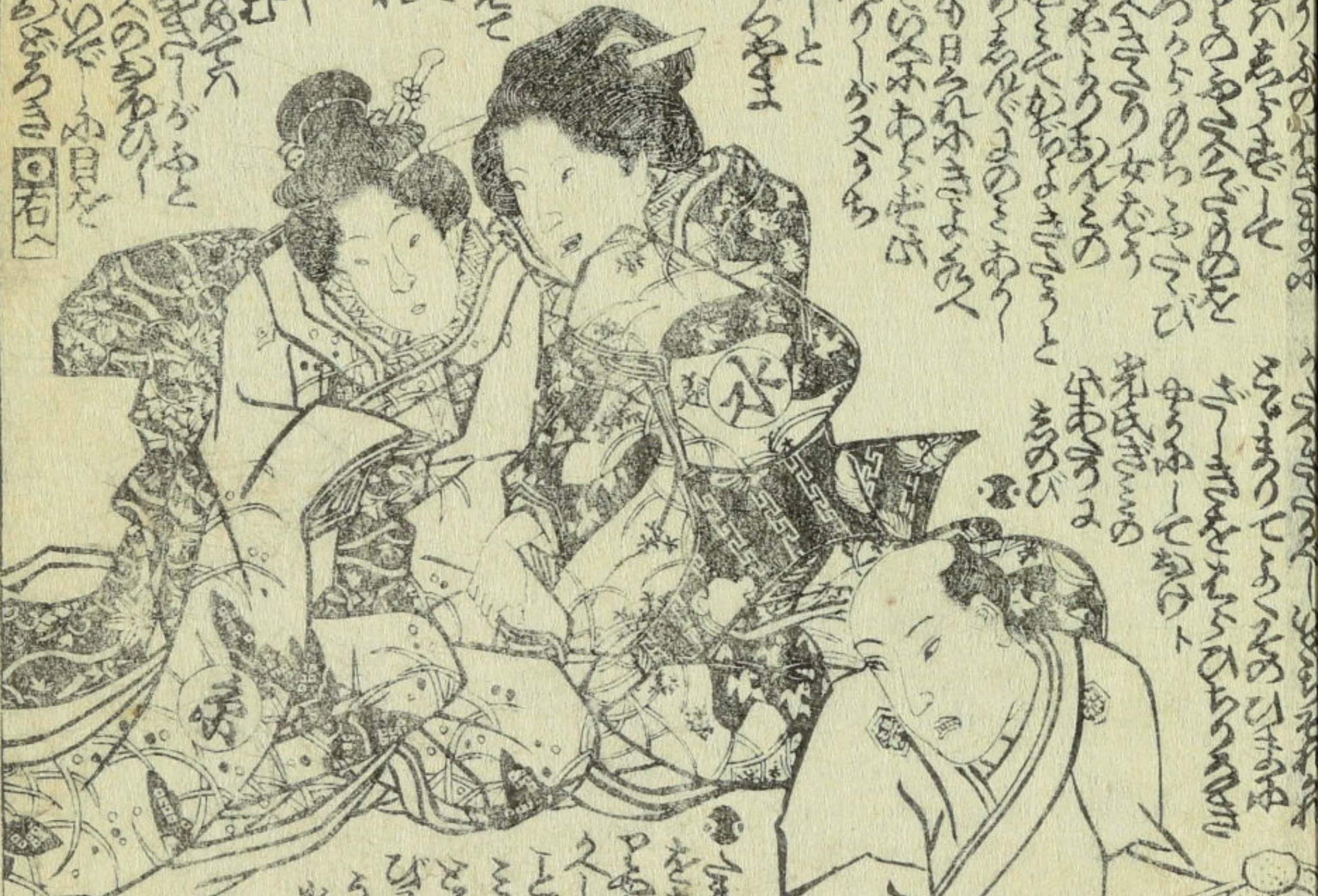
右五通り共格上品にて... 右五通り共格上品にて...

教真草文字と真草二體... 教真草文字と真草二體...



Calligraphic annotations and text surrounding the illustration, including names like '大書' and '消息往来'.

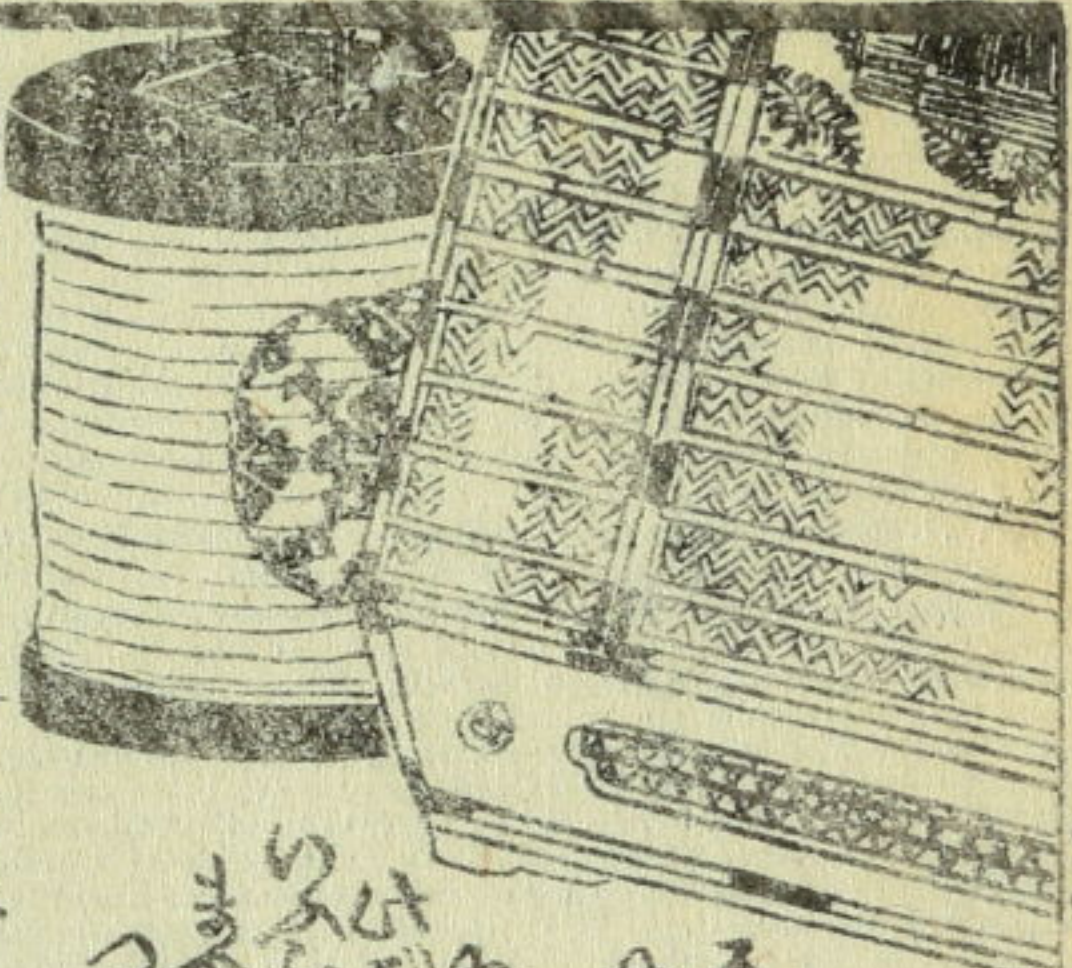
Handwritten text in the upper left section of the page, written in vertical columns.



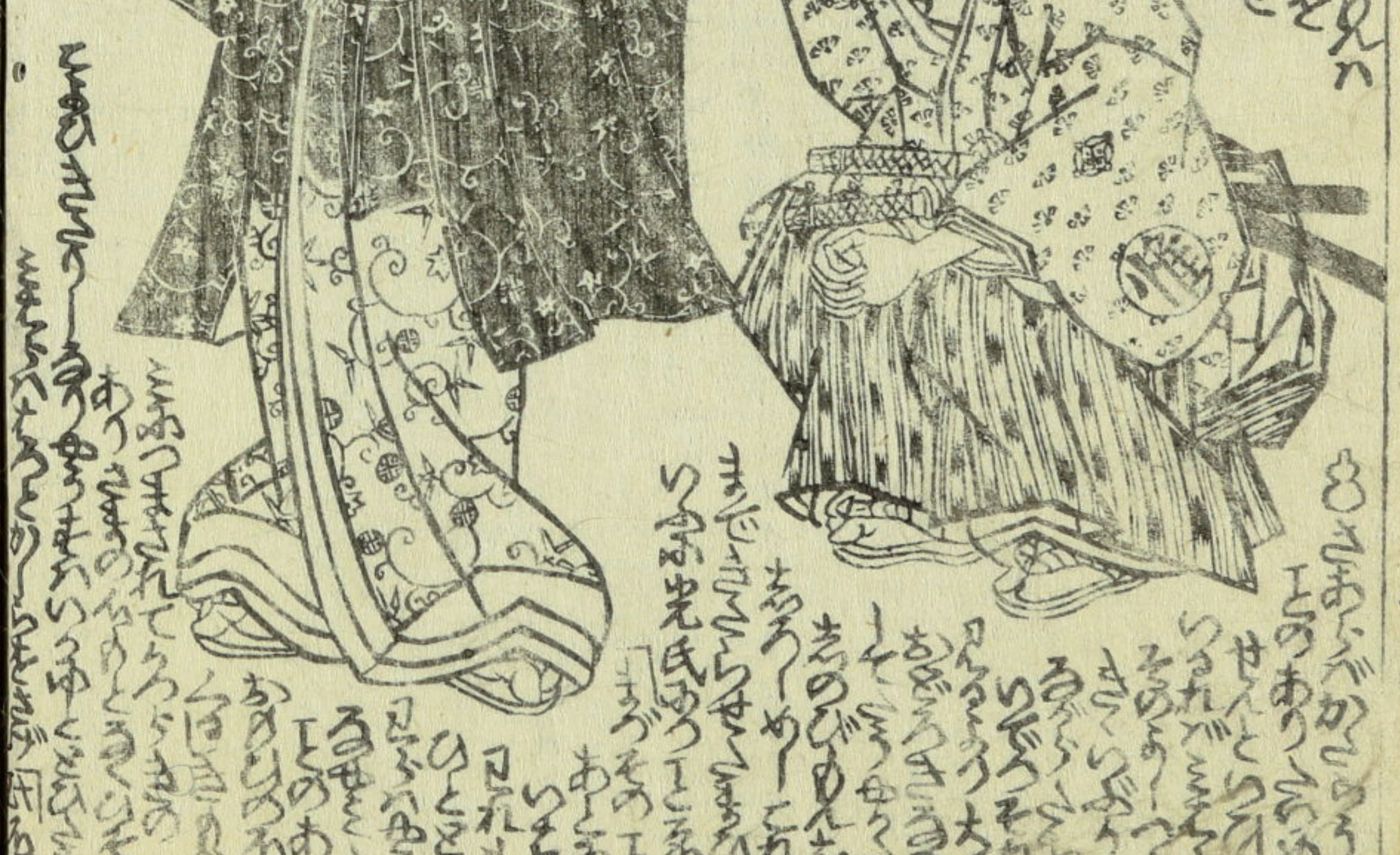
Handwritten text in the lower left section of the page, written in vertical columns.

Handwritten text in the bottom left section of the page, written in vertical columns.

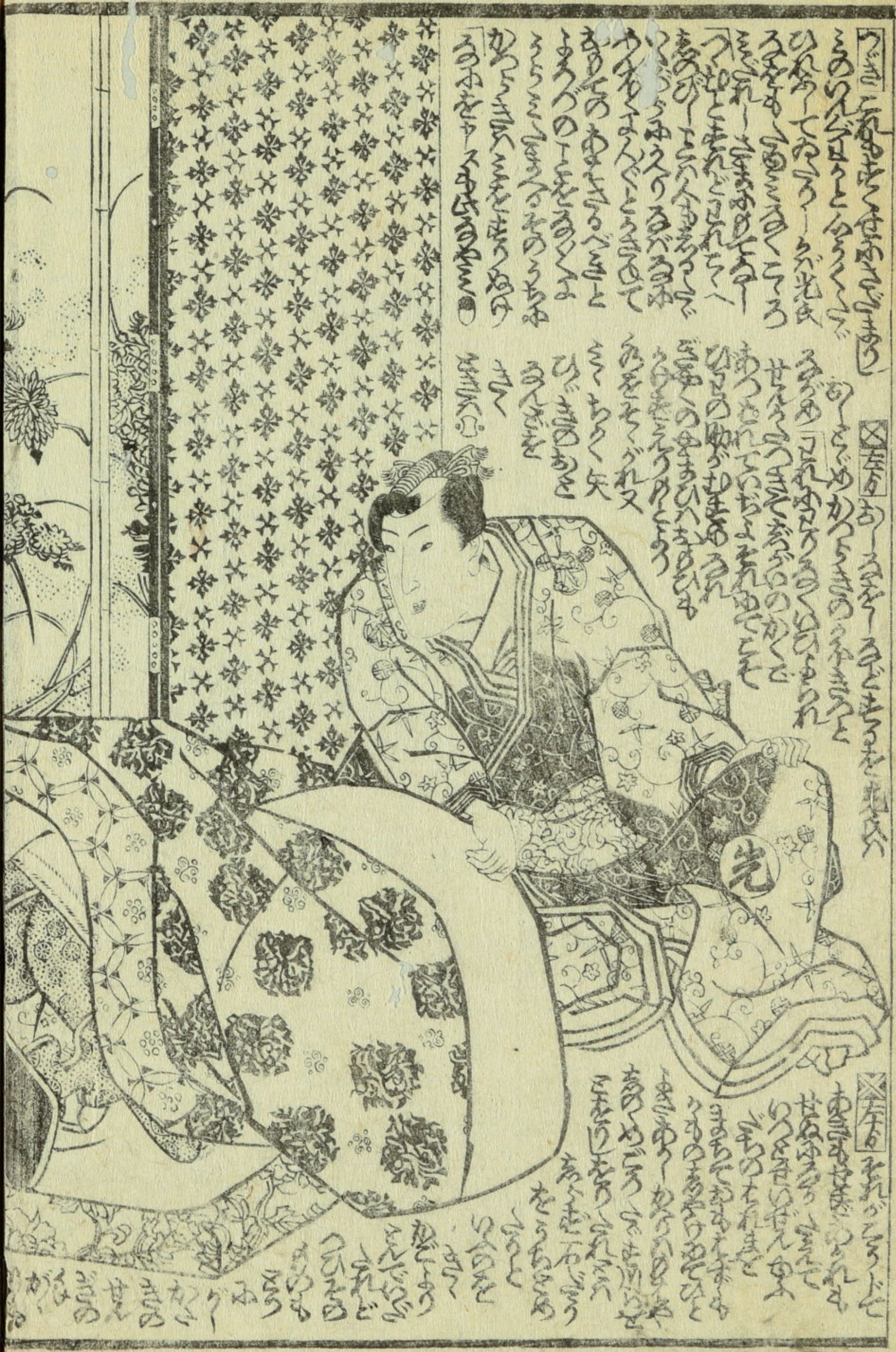
Handwritten text in the upper right section of the page, written in vertical columns.



Handwritten text in the middle right section of the page, written in vertical columns.



Handwritten text in the bottom right section of the page, written in vertical columns.



追瀬川

全一冊 琴通舎英賀述 瀬川初編を代めたる新編狂言名目
香蝶樓国貞画 似り木守りありは異名有狂言狂
一勇為国芳画 文の発句狂言ホの母と云ふ名目あり

消息往来詳註

高井蘭山述 全一冊

隅田川兩岸覽

北齋筆 全三冊

消息往来世より初めたる初編の助と云ふ
解したるは初編の助と云ふ初編の助と云ふ
よきものあり初編の助と云ふ初編の助と云ふ

江戸名所東鑑

蕙齋筆 全三冊

合則 壽福三世相大鑑

全冊

江戸名所物見

在清長筆 全三冊

合則一冊 初めたる初編の助と云ふ初編の助と云ふ
よきものあり初編の助と云ふ初編の助と云ふ

花の都路

狂歌入 全三冊

奉獨杜昔古

中本 山櫻連作

戲場頭微鏡

黙々澳隱作 全三冊

凡巻の初めたる初編の助と云ふ初編の助と云ふ
よきものあり初編の助と云ふ初編の助と云ふ

右五通り共松上

品にして其類に仕立
所進物扱ふに極むる法なり

教真草消息往来

全一冊

右五通り共松上

品にして其類に仕立
所進物扱ふに極むる法なり

瀧澤篁民著

迎福南鏡録

初編の助と云ふ初編の助と云ふ
よきものあり初編の助と云ふ初編の助と云ふ

右同著

初編の助と云ふ初編の助と云ふ
よきものあり初編の助と云ふ初編の助と云ふ

雅俗傳奇

初編の助と云ふ初編の助と云ふ
よきものあり初編の助と云ふ初編の助と云ふ

女消息往来

初編の助と云ふ初編の助と云ふ
よきものあり初編の助と云ふ初編の助と云ふ

曆日講釋

初編の助と云ふ初編の助と云ふ
よきものあり初編の助と云ふ初編の助と云ふ

俳諧今四歌仙

初編の助と云ふ初編の助と云ふ
よきものあり初編の助と云ふ初編の助と云ふ

梅室 木木 桐雨 小圃 四人

初編の助と云ふ初編の助と云ふ
よきものあり初編の助と云ふ初編の助と云ふ

追瀨川全一冊

琴通舎英賀述瀨川新編五代ゆりの新編狂言名目
香蝶樓國貞画(公)のホリカウ(一)と英法名家狂言狂
一勇為國芳画(文)の發句狂言ホリカウ(一)と英法名家

消息往來詳註

高井蘭山述 全一冊

隅川西岸覽北齋筆

袋入 全三冊

合則壽福三世相大鑑全冊

江戸名所東鑑蕙齋筆 全三冊

合則壽福三世相大鑑全冊

江戸名所物見丘清長筆 全三冊

奉獨替古

戲場頭微鏡 狂歌入 全三冊

奉獨替古

花の都路 狂歌入 全三冊

教真草消息往來

右五通り共極上品にして考案に仕立
沙進物杯共極上品に考案仕立仕立

御免江戸曆開板所

載陽帖 南山禅師書 東海道
道法早筆用道中記 一枚撮

日本名所之繪

蕙齋鋏形紹真筆

女古狀揃園生竹

高井蘭山編撰

還魂紙料

田喜菴輯

荻のしらべ

隨筆 玄同放言

隨筆

初編二編三編

隨筆

初編二編三編

隨筆

初編二編三編

隨筆

初編二編三編

三畝莊木本校輯
芳州集 全冊
板

同輯
禁蘭集 全冊
刻

戲童
遊言画手本 一名鳥羽繪早まじび出来

廣益
懷中早割大全 小本

塵劫記
新形染彩目 植花手引系

芝居
似顔早替古 後編

文字
似顔早替古 後編

藝品定
役者評判記 全三冊

即考
百籤 全一冊

御免江戸曆開板所 每年十月下旬自以了り重初めり

載陽帖 南山禅師書 東海道 本曾海道

新撰
日本名所之繪 唐紙摺一枚 蕙齋歙形紹真筆

新撰
女古狀揃園生竹 大本 半紙本 両品出来 高井蘭山編撰

新撰
還魂紙料 柳亭種彦隨筆 古画入二冊

田喜共編輯
芦のいとも

隨筆
玄同放言 初編二編 共三巻

右才三編三冊
玄同放言 初編二編 共三巻

初編二編
玄同放言 初編二編 共三巻

初編二編
玄同放言 初編二編 共三巻

三畝莊木本校輯
芳州集 全冊 板
禁蘭集 全冊 刻
遊言画手本 一名鳥羽繪早まじび出来
懷中早割大全 小本
新形染彩目 植花手引系
似顔早替古 後編
似顔早替古 後編
役者評判記 全三冊
百籤 全一冊
御免江戸曆開板所 每年十月下旬自以了り重初めり
載陽帖 南山禅師書 東海道 本曾海道
日本名所之繪 唐紙摺一枚 蕙齋歙形紹真筆
女古狀揃園生竹 大本 半紙本 両品出来 高井蘭山編撰
還魂紙料 柳亭種彦隨筆 古画入二冊
芦のいとも
玄同放言 初編二編 共三巻
右才三編三冊 玄同放言 初編二編 共三巻
初編二編 玄同放言 初編二編 共三巻
初編二編 玄同放言 初編二編 共三巻

三畝莊木本校輯
芳州集 全冊 板
禁蘭集 全冊 刻
遊言画手本 一名鳥羽繪早まじび出来
懷中早割大全 小本
新形染彩目 植花手引系
似顔早替古 後編
似顔早替古 後編
役者評判記 全三冊
百籤 全一冊
御免江戸曆開板所 每年十月下旬自以了り重初めり
載陽帖 南山禅師書 東海道 本曾海道
日本名所之繪 唐紙摺一枚 蕙齋歙形紹真筆
女古狀揃園生竹 大本 半紙本 両品出来 高井蘭山編撰
還魂紙料 柳亭種彦隨筆 古画入二冊
芦のいとも
玄同放言 初編二編 共三巻
右才三編三冊 玄同放言 初編二編 共三巻
初編二編 玄同放言 初編二編 共三巻
初編二編 玄同放言 初編二編 共三巻

三歌莊木本校輯

芳州集全冊 關 芳州集の註釋 芳州集の註釋 芳州集の註釋

禁蘭集全冊

追 禁蘭集全冊の註釋 禁蘭集全冊の註釋

戲童遊言画手本一名鳥羽繪早まらび出棠

廣益懷中早割大全 小本 廣益懷中早割大全の註釋

新形染彩目 植花手引系 前編出来 後編嗣刻

芝居似顔早替古 後編 全冊五渡真國島画

文字自笑評 藝品定 役者評判記 全冊

即考百籤 全一冊 即考百籤の註釋

瀧澤傳皇氏著 迎福南鏡録 全一冊

右同著 雅俗百傳奇 大本全五冊 繪入

女消息往來 全一冊 女消息往來の註釋

曆日講釋 全一冊 劉卜子先生著

俳諧今四歌仙 全一冊 梅室 木木 桐雨 小圃 四大

俳諧今四歌仙 全一冊 梅室 木木 桐雨 小圃 四大

俳諧今四歌仙 全一冊 梅室 木木 桐雨 小圃 四大

俳諧今四歌仙 全一冊 梅室 木木 桐雨 小圃 四大

俳諧今四歌仙 全一冊 梅室 木木 桐雨 小圃 四大

俳諧今四歌仙 全一冊 梅室 木木 桐雨 小圃 四大

俳諧今四歌仙 全一冊 梅室 木木 桐雨 小圃 四大

俳諧今四歌仙 全一冊 梅室 木木 桐雨 小圃 四大

俳諧今四歌仙 全一冊 梅室 木木 桐雨 小圃 四大

俳諧今四歌仙 全一冊 梅室 木木 桐雨 小圃 四大

俳諧今四歌仙 全一冊 梅室 木木 桐雨 小圃 四大

追瀬川全一冊

琴通舎員有述瀬川初編を次々とその流瀬を往々たる
香蝶樓国貞画
勇命国芳画
文々の家宛の程亦小のせりるまゝの流瀬之

消息往来詳註

高井蘭山述
全一冊

隅田川兩岸覽北齋筆
全三冊

消息往来詳註

江戸名所東鑑黄齋筆
全三冊

合則壽福二世相大鑑

江戸名所物見在清長筆
全三冊

奉獨藝古今

戲場頭微鏡
全三冊

教真草消息往来

百人一首童講譯

傾城水滸傳

花街雀

三國志書傳

夜遊

八尊藤王傳

國字水滸傳

仙女香里乳美玄香里乳

春遊霞

成駒香

鶴聲丹

仙女香里乳美玄香里乳

星下梅花咲

成駒香

色

仙女香里乳美玄香里乳

屋簷屋簷

成駒香

屋簷屋簷

成駒香

屋簷屋簷



天保辰春新書版本地問屋仙堂

傾城水滸傳第二編全冊
柳亭種彦校註立亭仙果作
 歌川貞安画

年代記童講譯全八冊
柳亭種彦撰厚田仙果譯
 歌川貞芳画

花街雀竹夜遊
柳亭種彦校註立亭仙果作
 歌川貞安画

霞帶如月
柳亭種彦撰厚田仙果譯
 歌川貞芳画

年中御祝儀音童講譯全冊
柳亭種彦撰厚田仙果譯
 歌川貞芳画

國字水滸傳第二編全冊
柳亭種彦撰厚田仙果譯
 歌川貞芳画

浮世世說全四冊
柳亭種彦撰厚田仙果譯
 歌川貞安画

義仲朝日鑑
柳亭種彦撰厚田仙果譯
 歌川貞安画

修紫田舎源氏七六篇
柳亭種彦撰厚田仙果譯
 歌川貞安画

三國志書傳第一編全冊
柳亭種彦撰厚田仙果譯
 歌川貞安画

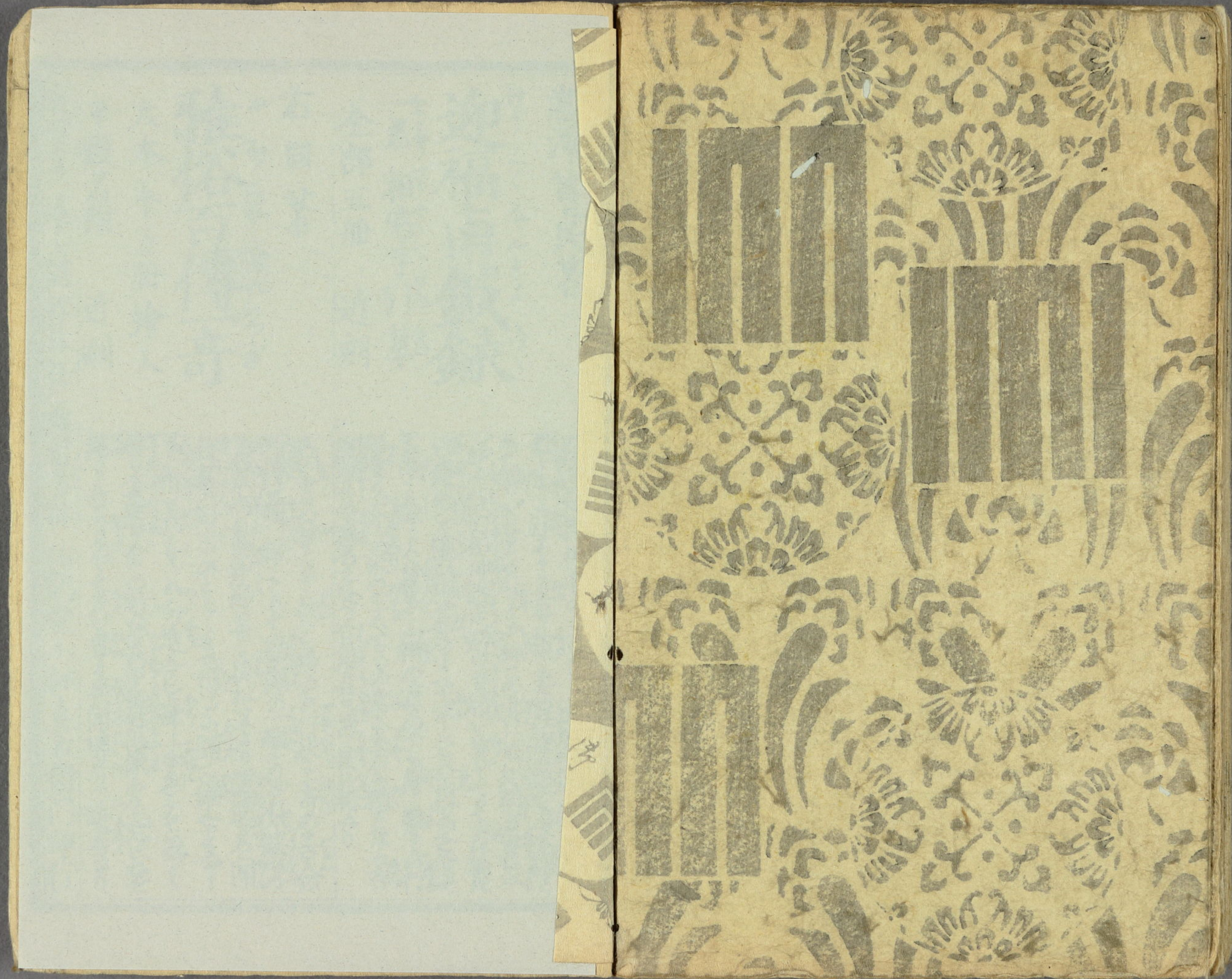
仙女香
柳亭種彦撰厚田仙果譯
 歌川貞安画

團扇地紙
柳亭種彦撰厚田仙果譯
 歌川貞安画

成駒香
柳亭種彦撰厚田仙果譯
 歌川貞安画

問屋鶴屋喜齋門
柳亭種彦撰厚田仙果譯
 歌川貞安画





龍澤管主民著

迎福南鍼録

一名相宅手引草
全部五冊 近刻

右同著

雅俗百傳一奇

大本全五冊繪入
平假名附 近刻

右書真一遠公同版仕の写通油西書林 仙鶴堂小林喜右衛門印行

近刻 龍澤管主民著 迎福南鍼録 一名相宅手引草 全部五冊 近刻 此書は龍澤管主民の著で、龍澤家は鎌倉時代から続く御医の家で、この書は家伝の秘術を公開したものである。内容は相宅の手引から、各種の病の診断法、養生法、乃至は方脈の理法まで、非常に詳しい。また、龍澤家流の「迎福南鍼」の法も詳しく載っている。この書は、医学の発展に大きく貢献したとされる。近刻は、現代の印刷技術を用いた複製本である。

右同著 雅俗百傳一奇 大本全五冊繪入 平假名附 近刻 此書は龍澤管主民の著で、龍澤家は鎌倉時代から続く御医の家で、この書は家伝の秘術を公開したものである。内容は相宅の手引から、各種の病の診断法、養生法、乃至は方脈の理法まで、非常に詳しい。また、龍澤家流の「迎福南鍼」の法も詳しく載っている。この書は、医学の発展に大きく貢献したとされる。近刻は、現代の印刷技術を用いた複製本である。

天保七年申春新彫

山東京山作
琴声女房形氣 全四冊

歌川國貞画

五柳亭徳井作
森羅萬象心意氣 全四冊

歌川國芳画

柳亭種彦作
浮波さしり 八冊

歌川貞秀画

関亭傳笑作
烏勘左衛門忠義傳 全冊

歌川國芳画

宝田千町作
縮葉山操の松枝 全四冊

歌川國芳画

笠亭仙果譯
國字水滸傳 十四編 四冊

歌川國芳画

所かゝの茶おりの
羨艶仙女香甲八相 三丁自西側
坂本氏製衣
黒油羨玄香甲八相 西次
藤原公右衛門



書物錦繪 問屋鶴屋喜右衛門
團扇地紙 江戸通油町

天保六年乙未新春彫

柳亭種彦作繪草紙三種

修紫田舎源氏

歌川國貞画
十四編より十七編まで開板仕立

白間戲言句合 二冊

歌川國芳狂画

浮浪さりし 六冊

歌川貞秀画

枕琴夢之通路 六冊
仙果作

上州機華綾織 六冊
上同

井筒の蕪子 紫房 六冊
歌川貞秀画

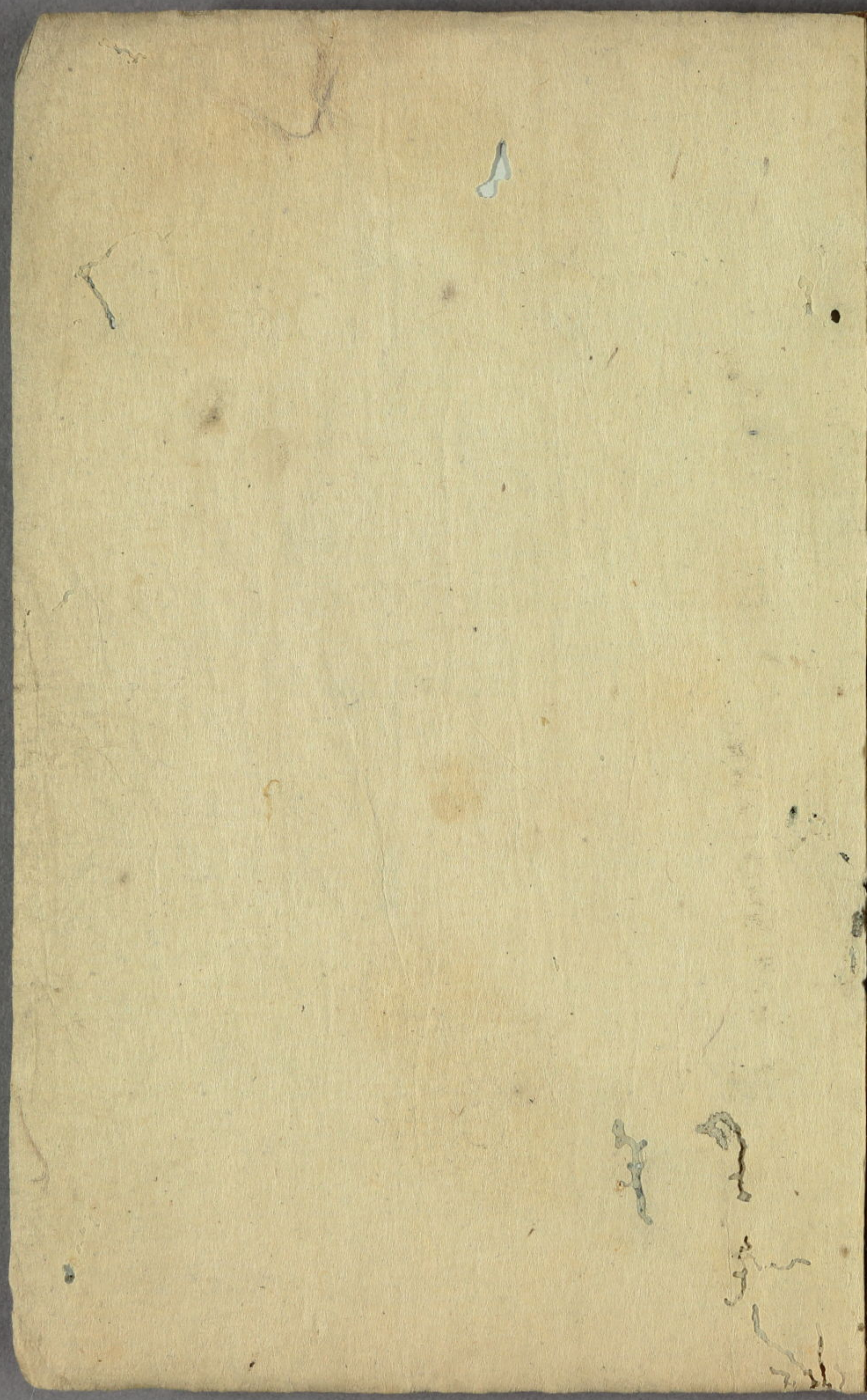
美艶仙女香翠翁
仙女香翠翁
南信馬所
二百四十四
坂本氏
黒油美玄香翠翁
藤屋彦彦



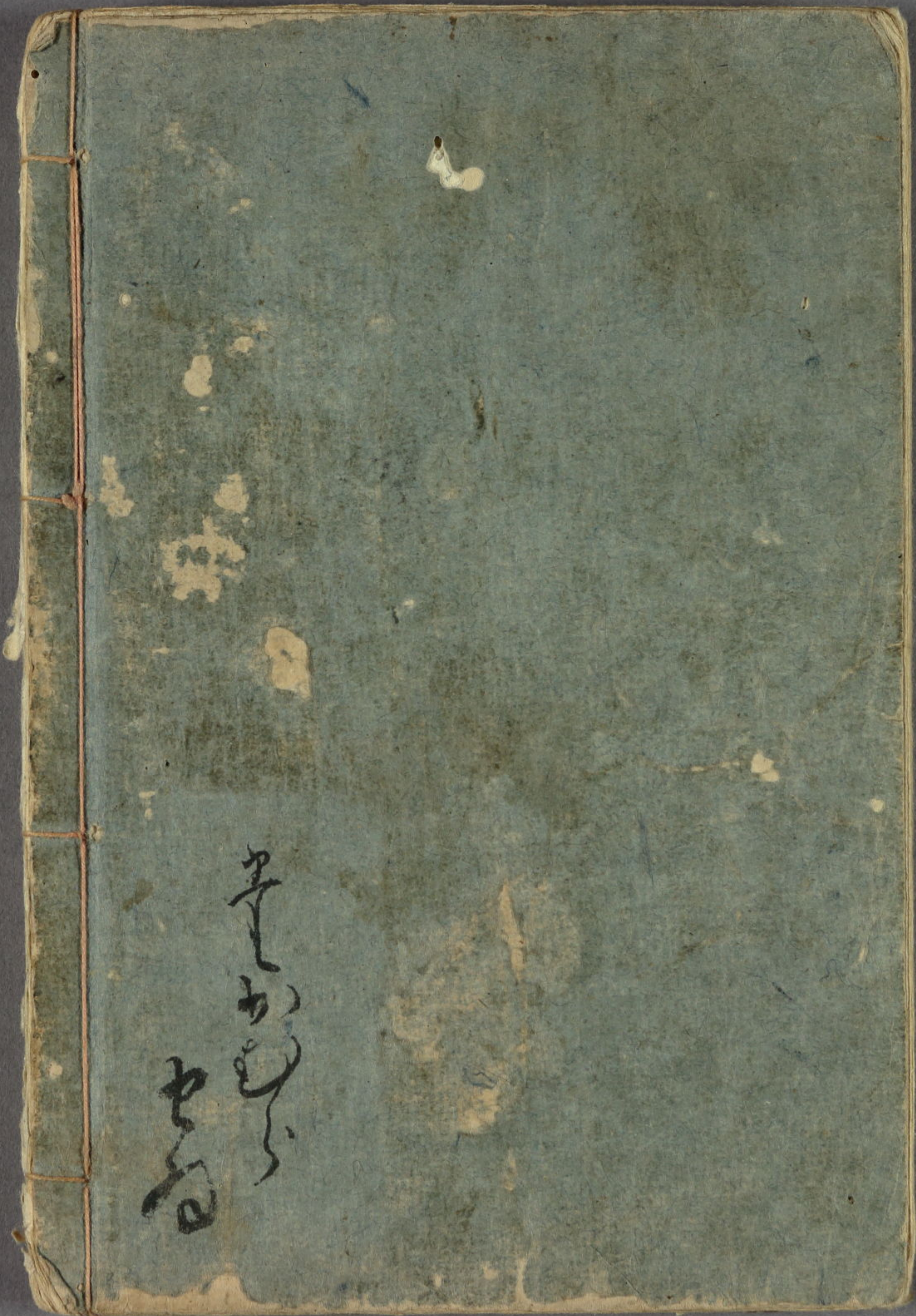
書物錦繪 江戸通油町
團扇織 問屋鶴屋吉右衛門

昔ははきまゝんく 三冊
昔かゝ証浦島い 三冊
茶番のいろは 二冊

ひり嘶火さるア 二冊



文光堂大
一〇ノ
九四
每



平家物語
巻之六